

事務事業及び予算の執行実績（令和6年度分）
（一部、令和7年度分を含む）

静岡県立静岡北特別支援学校

目 次

事務事業の概要	
1 概況	1
2 目指す学校像	5
3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等	6
4 監査対象期間における特色ある取組	13
5 教職員について	15
6 防災対策について	20
7 学校開放について	26
事務執行の根拠法令調	27
学校施設の概要	28
在籍生徒調	30
入学志願者及び入学者数調	32
卒業生の動向調	33
生徒の状況	34
保管現金有高調	36
預金調	36
郵券等受払調	37
材料品受払調	38
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	39
委託料に関する調	41
負担金支出調	46
建築工事調	47
公有財産調	49
借地借家等調	50
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	51
行政財産貸付・使用許可調	52
主要備品調	53
特別支援学校における生産物受払調	54
職員調	56
職員の年齢調	62
健康管理	63

事務事業の概要

1 概況

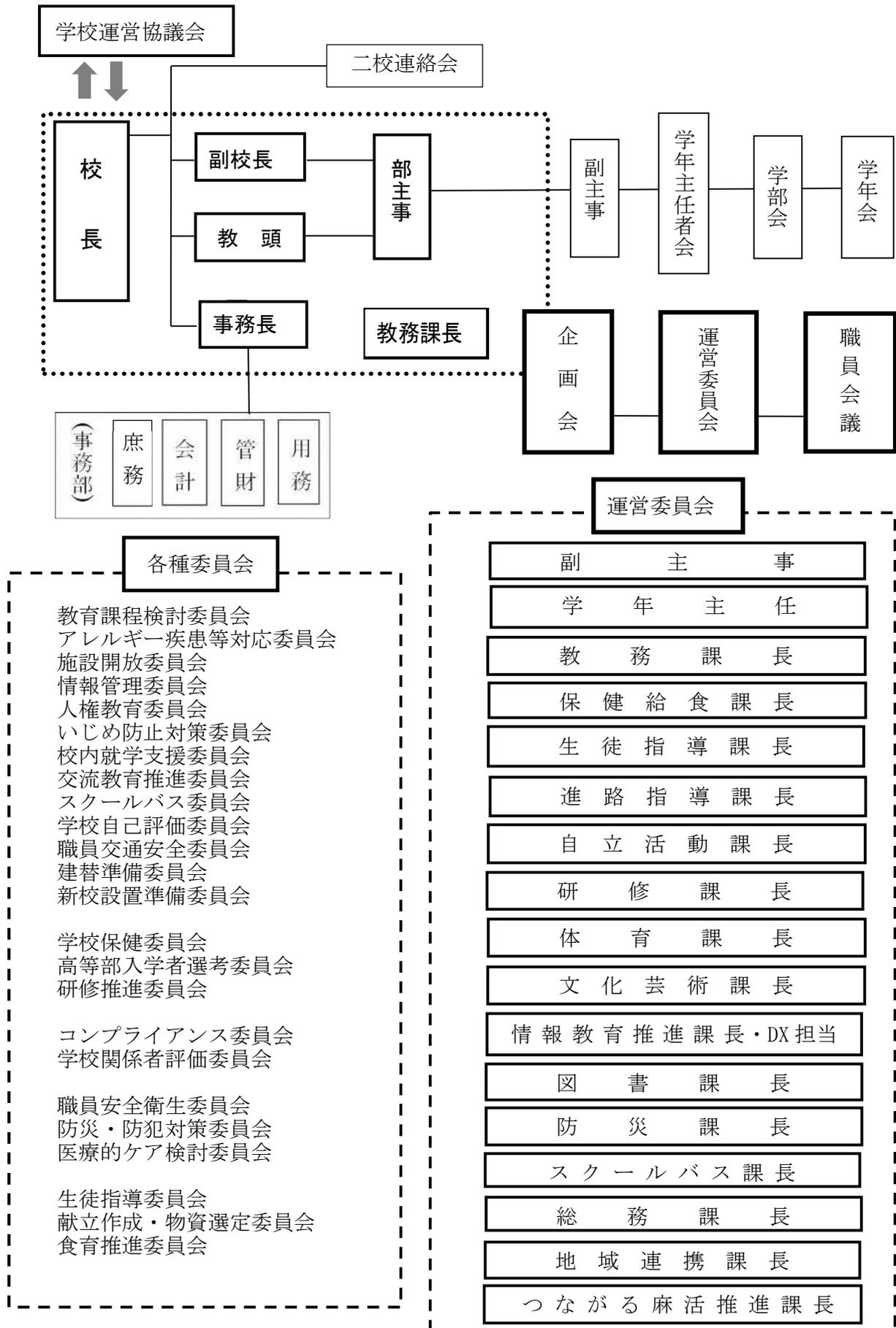
(1) 学校の沿革

- 昭和 49. 4. 1 静岡県立静岡北養護学校開校 高等部入学定員 20 人
49. 4. 10 静岡市瀬名 2667 番地の 1 (旧静岡市立西奈中学校跡) の仮校舎において開校式及び第 1 回入学式挙行
49. 8. 30 静岡市東字漆山 796 の現校舎へ移転
52. 3. 9 静岡市漆山 796 番地に地番変更
53. 5. 10 創立 5 周年記念式典挙行 校旗・校歌を制定
54. 4. 1 養護学校義務化に伴い東遠学園 (菊川町)・駿遠学園 (金谷町) 内に分教室を設置
56. 4. 1 安倍学園内に分教室を設置
60. 4. 1 高等部入学定員 30 人
- 平成 2. 4. 1 駿遠分教室を藤枝養護学校に、東遠分教室を袋井養護学校にそれぞれ移管
3. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 27 人
6. 2. 10 創立 20 周年記念式典挙行
9. 12. 25 南校舎完成 (軽量鉄骨造、平屋建 287.86 m²)
11. 3. 19 校舎 (中・高等部棟) 耐震補強工事完成
11. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 36 人
11. 10. 15 校舎 (小学部棟) 耐震補強工事完成
12. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 54 人
13. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 36 人
清水市立清水小学校敷地内に静岡北養護学校清水分校開校
15. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 54 人 (6 学級)
学則変更により、高等部訪問教育を中央養護学校に移管
16. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 57 人、うち 1 学級は重複学級認可
静岡県立静岡南高等学校敷地内に南の丘分校 (高等部) 開校。入学定員 18 人
17. 4. 1 静岡市政令都市移行に伴う住所変更
本 校 静岡市葵区漆山 796 番地
清水分校 静岡市清水区松井町 15 番 1 号
南の丘分校 静岡市駿河区大谷 5762 番地
安倍分教室 静岡市葵区慈悲尾 180 番地
学則変更により、高等部入学定員 48 人、うち 1 学級は重複学級認可
17. 12. 20 体育館耐震補強工事完成
20. 4. 1 静岡県立学校設置条例の改正に伴い、静岡県立静岡北特別支援学校に校名を変更
学則変更により、高等部入学定員 57 人、うち 1 学級は重複学級認可
21. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 48 人、うち 1 学級は重複学級認可
22. 3. 31 新設校 (清水特別支援学校) 開設により静岡北特別支援学校清水分校閉校
22. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 30 人、うち 1 学級は重複学級認可
23. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 39 人、うち 1 学級は重複学級認可
24. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 48 人、うち 1 学級は重複学級認可
25. 4. 1 静岡県立駿河総合高等学校敷地内に静岡北特別支援学校南の丘分校 (高等部) を移転
26. 2. 1 創立 40 周年記念式典挙行 新校歌を制定
26. 3. 31 安倍分教室廃止

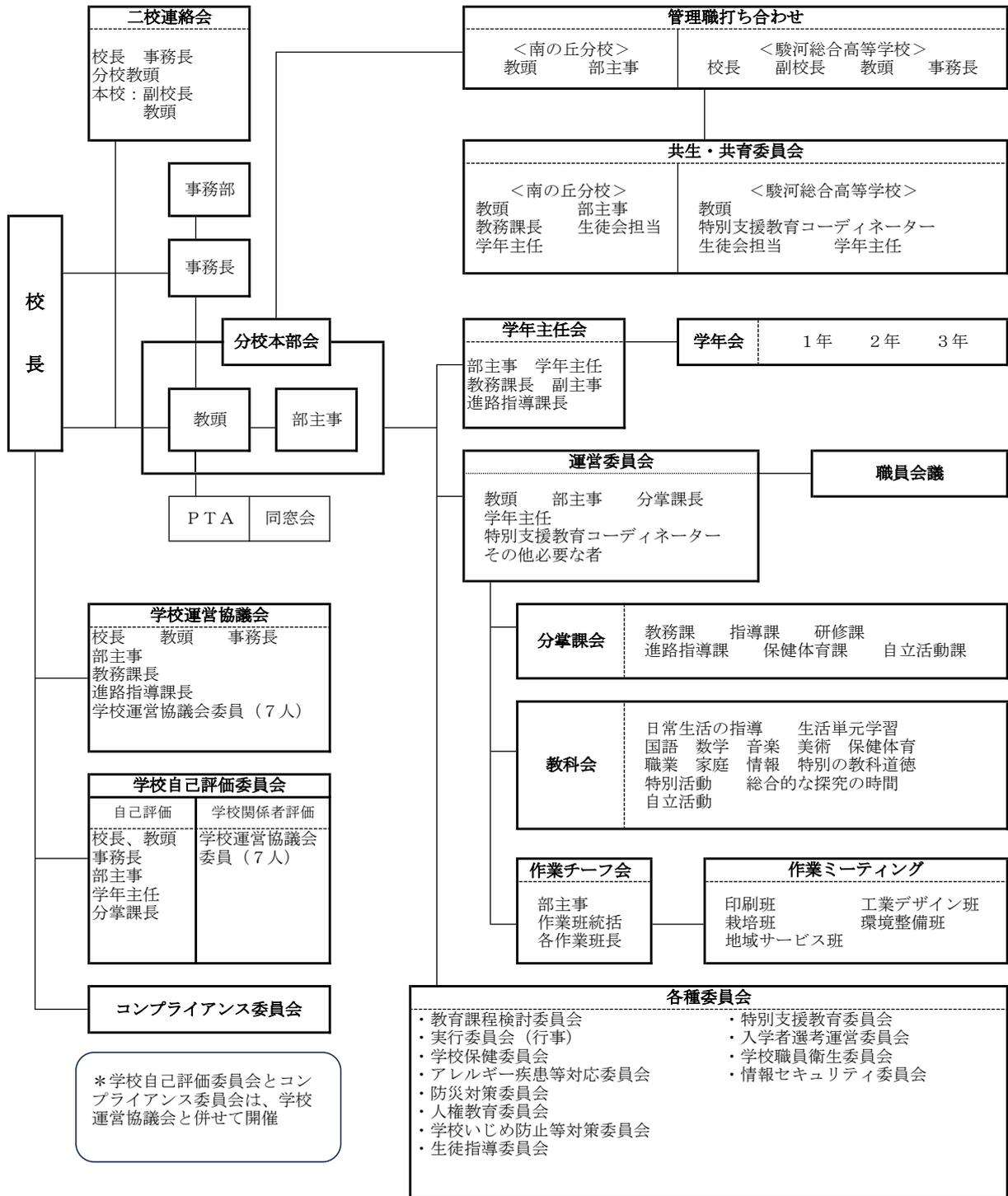
- 26. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 57 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 27. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 66 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 28. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 39 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 29. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 57 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 30. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 43 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 31. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 57 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 令和 2. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 66 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 3. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 48 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 4. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 93 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 5. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 48 人、うち 1 学級は重複学級認可
学則変更により、南の丘分校（高等部）入学定員 27 人
- 6. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 66 人、うち 1 学級は重複学級認可
- 7. 2. 1 創立 50 周年記念式典挙行
- 7. 2. 2 南の丘分校創立 20 周年記念式典挙行
- 7. 4. 1 学則変更により、高等部入学定員 57 人、うち 1 学級は重複学級認可

(2) 組織図

<本校>



<南の丘分校>



2 目指す学校像

(1) 教育目標

「夢中」と「笑顔」で共生社会を生きるひと

(2) 目標具現化の柱

<本校>

ア 主体的に学び、社会参加・自立に必要な力をつけることができる学校【専門性】

(ア) 知的障害教育校として、学校体制でのカリキュラム・マネジメントと、静北版OJTによる「技」の伝え合いを行い、児童生徒に確かな力を育成する。

(イ) 本校のチーム力を強みに、特別支援学校で働くことの「魅力」を語り共有できる職場づくりと「効率よくかつ迅速な」業務遂行に努める。

イ 安全・安心な生活ができる学校【安全・安心】

(ア) 教職員自らが人権感覚を高め、児童生徒の人権尊重の精神を涵養する。

(イ) 児童生徒の授業の充実と健康に配慮した居場所づくりのため、今ある環境を最大限に生かした工夫と改善で、よりよい学習環境を整備する。

ウ 家庭や地域、関係機関と共に歩む学校【連携】

(ア) 本校の自慢である地域資源を活用する学習（麻活）を更に地域に発信し、より一層地域に根ざした学校を目指す。

(イ) 個別の教育支援計画と個別の指導計画を、保護者、学校、各種機関等が児童生徒を中心に連携するためのツールとして、必要な場面で確実に共有する。

<南の丘分校>

ア 主体的に学び、社会参加・自立に必要な力をつけることができる学校【専門性】

(ア) 知的障害教育校として、系統的な指導を構築し、OJTや個々の研修による授業技術と指導力の向上に努める。

(イ) 作業学習や職業教育の充実を柱に、各教科の学びを深め、キャリア発達支援を目指す。

(ウ) 特別支援学校で働くことの「魅力」を語り、共有できる環境づくりと「効率よくかつ迅速な」業務遂行に努める。

イ 安全・安心な生活ができる学校【安全・安心】

(ア) 教職員、生徒が共に自他を尊重する精神を涵養し、誰もが安心して表現、発信できる環境を整える。

(イ) 教職員、生徒・保護者の連携の下、心身の健康を意識した習慣と安全に配慮した生活環境を整える。

ウ 家庭や地域、関係機関と共に歩む学校【連携】

(ア) 地域に根ざした学校を目指し、地域で学び、貢献する活動を通して、生徒が地域の中で生活する基盤をつくる。

(イ) 学校生活の充実、進路希望の実現を目指し、生徒を中心にして保護者、学校、関係機関等が、個別の教育支援計画等を活用して連携する。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標はゴシック体で記載）

<本校>

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
専門性	学校体制でのカリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の状況、学年の押さえ、学習指導要領の目標・内容、単元や題材の持ち味等から授業の根拠を語るができる教員100% 授業の根拠について説明を受けたと答える保護者 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教員評価 98.1% 保護者評価 90.4% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に基づき、根拠を持った年間計画の作成や授業づくりをすることができた。 年間指導計画を作成後も教科等合わせた指導の系統性や教科横断的な視点を共有したり、見直したりして活用していく。 保護者に向けて、学年だよりや懇談会、面談、ホームページ等で授業について発信した。活動の様子、あらわれは伝わったが、何のためにその授業をしているかについては伝わっていない部分もあった。保護者の視点に立ち、分かりやすい言葉や写真等を使って伝えていく。
	児童生徒理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 授業が楽しい、できるようになったことが増えたと答える児童生徒や保護者80%以上 児童生徒個々の学びに応じ、ICTのよさを生かした授業実践に挑戦した教員 100% 静北版OJTで「技」の伝え合いを行った教員100% 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒評価 81.7% 保護者評価 95.6% 教員評価 (ICT) 99.4% 教員評価 (OJT) 96.7% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒、保護者の80%以上が「授業が楽しい」「学校が好き」と答え、一人一人が「楽しい」と思える授業づくりをすることができた。 「できるようになったことが増えた」と答える児童生徒は77.4%と、目標に達しなかった。専門性を高め、児童生徒が「やった」「できた」と達成感や満足感を感じることができるよう支援、指導の工夫をしていく。 ICTの活用について講習会を実施したり実践事例を発信したりした。多くの教員がICTを使用した授業実践に積極的に取り組むことができた。 ペアを組んだり、場を設けたりしたことで、授業づくりや教材研究などについて伝え合うことができた。また、普段からTTで指導や支援について話をするOJTが行われている。
	月45時間以内を目指した時間外勤務の削減	<ul style="list-style-type: none"> 自分で決めた時刻の退勤を目指し、タイムマネジメントをした職員100% 時間内の終了と双方向の場づくりを目指した会運営に参加又は協力できた教職員100% 	<ul style="list-style-type: none"> 職員評価 89.4% 職員評価 94.9% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校や学部では、時間外勤務の削減を目指して様々な取組をしているが、個々でタイムマネジメントへの意識の違いがあり、目標達成には至らなかった。引き続き、業務の精選を行うと共に、教員のスケジュールリングやタスク管理への意識を高めていく。 資料の事前配布や協議事項の焦点化、ICTの使用、進め方の工夫などを行い、時間内に会議を終えることができた。会議の目的に向けて議論を深

		<ul style="list-style-type: none"> ・事務室から教員への確実な情報提供 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員評価 100% 		<ul style="list-style-type: none"> め、話し合いの質を高めていきたい。 ・掲示板等で正確で丁寧な情報提供を行った。また、質問等にも丁寧に対応することで、教員が業務を円滑に進めることができた。
安全・安心	自他を尊重しあう環境の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶と感謝の言葉がよく聞かれたという保護者90%以上、職員100% ・児童生徒の人間関係や学習上・生活上困っていることの積極的な把握に努め、早期に組織で対応したと答える教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者評価 94.8% ・職員評価 98.7% ・教員評価 98.7% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの挨拶や感謝の言葉が聞かれた。教員、児童生徒、保護者間で自然に挨拶を交わす雰囲気ができている。本校の自慢として継続させていきたい。 ・記録シートを活用し、児童生徒同士のトラブルや気になることについて共有することで、早期に対応することができた。
	未然防止への行動力と有事への対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの情報共有100% ・有事の際の自分の動きを具体的に想定できる職員100% ・学習中のけがや病気の発生ゼロを目指し、具体的な予防策に取り組んだ教員 100% ・建替工事の中でも、よりよい学習環境確保のために、工夫や改善を行った教職員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員評価 98.7% ・職員評価 100% ・教員評価 99.4% ・職員評価 96.1% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例と今後の対応や改善策を学校全体で周知し、再発防止に努めることができた。 ・詳細な実施計画に代えて危機管理マニュアルを活用した訓練を行うことで、各職員が自分で判断して行動することができた。今後も様々な状況下を想定した防災訓練を実施する。 ・感染症対策、熱中症予防等の呼び掛けや、環境確認の実施を行い、熱中症や感染症の拡大はなかった。 ・工事を見据えて、学習内容や活動場所などを計画することができた。
連携	豊かな地域資源への深い理解と、それを活かした実践、発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「麻活」を本校の自慢として、更なる充実と校内での共有、情報発信に努めた教職員100% ・本校の麻活の取組を知っていると答えた保護者90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員評価 100% ・保護者評価 91.2% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「麻活」の良さを見直すと共に、PC 掲示板等を使って、各学部の取り組みを学校全体で共有することができた。また、50周年式典に向けての取組の中で、児童生徒も他学部の麻活について知ることができた。 ・ホームページやお便りなどで麻活の取組を定期的に発信した。今後も地域を有効的に活かした教育活動として、麻活を伝えていく。
	1年後、3年後、卒業後の夢づくりと関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・1年後、3年後、卒業後の夢の実現に向けた具体的な取組を示すことができた教員100%、目標を共有して取り組むことができたと答える保護者95% (小 100%、中 95%、高 90%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員評価 99.4% ・保護者評価 96.4% (小学部 98.7%) (中学部 98.5%) (高等部 93.7%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会を行い、教員が進路指導、キャリア教育について理解を深めることができた。また、高等部見学会や学年懇談会の機会を捉え、生徒、保護者と共に進路に関する情報提供や学習の場を設定できた。 ・個別の教育支援計画、指導計画を基に、保護者と児童生徒の将来を見据えた目標を共有し、学校と家庭で連携して取り組むことができた。

<南の丘分校>

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	各教科のめざす姿を明確にした教育課程再編	<ul style="list-style-type: none"> 教科等横断的な視点で学年会や教科会等で教育活動を振り返り、生徒に身に着けてほしい力を明確にした指導・支援ができたと答える教員 90%以上 個別の諸計画等を活用し、生徒を中心にした情報共有、交換ができたと答える保護者 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教員回答 前期 AB 90% 後期 AB 81% 保護者回答 A 35%, B 61% 合計 96% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 単元配列表を学年ごとに掲示し、随時見直しを図ることができた。さらに各学年の核としたい学習を中心に教科等に関連させるために「テーマのある学校生活」づくりを意識して年間指導計画を作成する。 主に三者面談で学習の目標や評価等、学校生活の様子を共有する際に活用することができた。今後は、さらに生徒にも分かりやすい表現等意識し、活用したい。
専門性	「学び、考え、発信し合う」姿を引き出す授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを知り、自分の目標を立て、その目標を確認したり振り返ったりして学校生活を送ることができたと答える生徒 80%以上 R-PDCAサイクルを意識し、授業を行うことで、生徒の成長につながったと答える教員 95%以上 学校生活で、iPad等、ICT機器を活用できていると回答する生徒 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒回答 はい 78% わからない 20% 教員回答 前期 AB 60% 後期 AB 86% 生徒回答 はい 80% いいえ 3% わからない 17% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価（自立活動チェックリスト）や他者評価（職場実習評価等）で教師と一緒に振り返り、作業学習の目標に生かす等の視点をもつようになってきている。生徒自身が自信をもって評価、回答できる支援が課題である。 授業で生徒のあらわれを見取り評価することができたが、今後は授業改善に生かすことが課題である。 12月より BYOD の取組を開始した。ICT 機器活用の研修や実践を積み重ねていく。
	業務のスリム化と教職員の時間への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 効率よく業務をする工夫を共有し、提出期限や業務終了時間を考え、計画的に仕事をするのができたとする教員 80%以上 職員室で生徒や授業の話がよくでき、共通理解を深められたとする教員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 前期 AB 45% 後期 AB 48% 前期 AB 85% 後期 AB 86% 	C	<ul style="list-style-type: none"> 各自が業務の優先順位や日程を意識して取り組んだものの、異動した教員が多く、日程の見通しが難しいことがあった。業務削減や持ち時間数の見直しが課題である。 職員室で生徒や授業の話ができ、生徒理解につなげることができた。
安全・安心	自分の安全と健康を守る習慣と環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 人権を尊重した支援・指導ができたと答える教員 100% 安心して、自分の考えや想いを伝えられる相手がいるとする生徒 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 前期 AB 95% 後期 AB 91% はい 72% いいえ 5% わからない 23% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 名前の呼び方や言葉遣い等、生徒の見本となるように取り組むことができた。 友達と話すことが楽しいとの回答が大多数な反面、一部に友達関係で悩みを抱えた生徒もいた。必要な場面では教師側から相談の機会設定する等対応することができた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせた心身の健康に関する授業や指導ができた教員 100% ・保健・体育の授業で学んだことを日常生活の中で取組めたと答える生徒 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 AB 95% ・後期 AB 76% ・はい 53% ・いいえ 17% ・わからない 30% 		<ul style="list-style-type: none"> ・保健では学習内容に合わせた集団で、健康や性に関する指導をすることができた。 ・生徒は日常生活で取り組んでいることの具体的な回答が約40件あったものの、授業で学んだことが幅広く、できているか自信をもって回答できない生徒が多い。
	分校の存在感の発信と地域活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR交流等を通し、自分たちの活動を伝えたり相手の感想等を聞いたりすることができたという生徒80%以上 ・学校の様子がよく分かったという保護者、参観者、関係機関 90%以上 ・行事や交流活動等、学習の様子をホームページに更新した。各教員 年1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 53% ・いいえ10% ・わからない 28% ・保護者A 31% ・B 65% ・合計 96% ・外部参加者 A 100% ・更新1回以上 73% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・発表や活動の説明等はできていた。感想用紙の交換等、実感が伴うような振り返り方法を工夫していく。 ・学校公開（説明会）に167人が参加した。文化祭や作業学習発表会にも多くの参加や肯定的な感想をいただいた。 ・新しいホームページに移行したため、更新方法を共通理解し、発信していく。
連携	進路希望実現に向け、本人が納得して進む進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己選択・自己決定できる授業や日常生活指導ができたと答える教員100% ・キャリアパスポートを活用して、「働く」「生活」「余暇」について考え、伝えることができたと答える生徒 90%以上 ・将来につながる今の生活について、生徒・担任と話したり情報交換したりして、学校と連携できたと答える保護者 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 AB 80% ・後期 AB 86% ・はい 72% ・いいえ 5% ・わからない 23% ・A 33% ・B 62% ・合計 95% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を通して、生徒の働くイメージを具体的な実習先や進路希望先につなげることができた。 ・キャリアパスポートへの記入だけでなく生徒の経験の積み重ねや考えの整理に役立つような活用の工夫が課題である。また、生徒、保護者の希望について、年度初めに進路希望調査を実施し、目指す方向を明確にしていく。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標（重点目標はゴシック体で記載）

<本校>

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
専 門 性	学校体制でのカリキュラム・マネジメントの推進	・年間指導計画の作成・活用・検証（系統性・教科横断的な視点での見直し等）	・年間指導計画を活用し、系統性・教科等横断的な視点で見直しや授業づくりの工夫（麻活含む）をすることができる教員 97%	教務 麻活推進
	児童生徒理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくり	・流れ図等を活用した一人一人への目標設定と支援計画の作成と活用 ・児童生徒の実態を踏まえた単元及び題材目標を設定し「児童生徒の思いを生かし一人一人の学びがつながり、ひろがる授業づくり」を実践 ・授業づくりに生きる情報発信音楽・図工・美術実践例 ICT（データベース）実践例建替え工事に伴う体育実践例 ・大規模校の良さを生かし専門性向上に資する「静北版OJT」の継続	・一人一人の実態を把握し、ニーズに合った支援の計画を立て指導している教職員100% ・個別の指導計画における自立活動の目標設定の仕方について理解が深まったと答える教員80% ・児童理解の票を活用して児童の目標設定をする教員100% ・授業が楽しい、できるようになったことが増えていると答える児童生徒や保護者80%以上 ・体験を通して児童が生き生きと活動できる授業を行う教員100% ・生徒の思いに沿った授業を実践できている教員100% ・個々の実態に合わせて、学びの姿を想定し、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりを行っている教員100% ・学習指導要領の目標・内容、単元や題材の持ち味、魅力等から授業の根拠を語る事ができている教員100% ・情報が授業づくりで参考にしたり、ICTのよさを生かした授業実践に挑戦したりしている教員90%以上 ・他学部の取組を知り、自身の授業づくりや指導に活かすことができたと答える教職員80% ・静北版OJT研修で「技」の伝え合いや、専門性を向上させるための話し合いを行った教員100%	自立活動 小学部 研修 図書 小学部 中学部 高等部 体育 文化芸術 情報教育 研修 進路指導
	月45時間以内を目指した時間外勤務の削減	・会議資料の事前配布や校務のDX化（ペーパーレス）と話し合いを活発にするための議題精選及び双方向の場づくりを継続 ・業務の共有化を図るため業務改善の継続（事務）	・事前に配布された資料や情報をもとに協議内容を共有して会議に臨むことができる教職員90% ・Google ワークスペースを活用してペーパーレス会議や業務に取り組んでいる職員100% ・事務室から教員への確実な情報提供100%	教務 情報教育 推進 事務
安全・安心	自他を尊重しあう環境の維持向上	・教職員と児童生徒が一緒になって気持ち良い挨拶や感謝の言葉を交わす雰囲気づくり ・セクハラ、いじめに気付き身を守る指導、人間関係や学習上・生活上児童生徒が困っていることの積極的な把握と早期対応の体制づくり（生徒	・挨拶と感謝の言葉がよく聞かれているという保護者90%以上、職員100% ・児童生徒の人間関係や学習上・生活上困っていることの積極的な把握に努め、早期に組織で対応していると答える教員100%	生徒指導 生徒指導

		指導課ファイルの有効活用等)		
	未然防止への行動力と有事への対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各手引きの理解・共有の工夫や分かりやすいマニュアルの作成。マニュアルを踏まえた訓練等の実施 誰もが安全・安心に生活できる環境整備 事務室と各学部及び各分掌における行事や予算等に係る密なやりとり 	<ul style="list-style-type: none"> 保健給食課の手引きや防災課の危機管理マニュアルを活用し、適切な対応や行動をとることができる教員100% 医療的ケアの教育的意義を共有している教員90% 本校の防災に関する課題の把握と改善に努めている職員の割合100% ヒヤリハット等の報告や熱中症・感染症対策で環境整備をしている教員100% 児童生徒が安全にバスを利用できるよう、保護者、介助員、SB 課員と課題を共有しながら、対応策を考えている教員100% 介助員が有事の際に、迅速に対応できるよう、連絡会を利用して訓練をしていることを知っている教員95% 安全や健康に配慮した快適な学校環境を目指し、整理整頓や清掃活動に取り組んでいる教員100% 学習中のけがや病気の発生ゼロを目指し、具体的な予防策に取り組んでいる教員100% 建替工事の中でも、よりよい学習環境確保のために、片付けや廃棄処分を行うことができる教職員100% 学部、分掌の要望が反映され、効果的な学部や分掌の運営ができていると答えた教員100% 	<p>保健給食 防災</p> <p>保健給食 防災</p> <p>保健給食</p> <p>スクールバス</p> <p>総務</p> <p>体育</p> <p>総務</p> <p>事務</p>
連携	豊かな地域資源への深い理解とそれを活かした実践、発信	<ul style="list-style-type: none"> 「麻活」の充実のための情報提供と職員研修の実施 児童生徒の「夢中と笑顔」を発信するホームページの充実と学校運営協議会との協働 	<ul style="list-style-type: none"> 麻活を題材とした授業実践を行っている、または活用しようと検討した教員100% 「麻活」に関する図書を授業づくりの参考にしている教員80% 本校のホームページを年間2回以上閲覧し、教育活動を知ったり（麻活含む）情報を得たりする保護者90%以上 ホームページで「夢中と笑顔」を発信できたと答える教員100% 	<p>麻活推進</p> <p>図書</p> <p>地域連携</p>
	1年後、3年後、卒業後の夢づくりと関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 連携機関や進路先との個別の教育支援計画の更なる有効活用 一人一人の夢づくりと個別の指導計画を活用した目標達成のための具体策の検討と共有 	<ul style="list-style-type: none"> 1年後、3年後、卒業後の夢の実現に向けた具体的な取組を示すことができる教員100% 個別の教育支援計画をもとに、目標に向かって取り組む保護者95%以上 個別の指導計画の目標を意識して支援・指導を実践していると答える教員100% 	<p>地域連携</p> <p>進路指導 自立活動</p> <p>自立活動</p>

<南の丘分校>

	取組目標	達成方法	成果目標	担当部署
専門性	各教科のめざす姿を明確にした教育課程再編	<ul style="list-style-type: none"> 「テーマのある学校生活」を念頭においたカリキュラムマネジメント 段階的かつ系統的な指導 生徒が活用できる個別の諸計画の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は、「テーマのある学校生活」づくりや各教科等との関連を意識して単元づくりをしている。 生徒は、自分の年間目標が分かり、学校生活を送っている。 	教務
	「学び、考え、発信し合う」姿を引き出す授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> BYOD 事業を含む ICT 機器を活用した実践紹介と推進 作業学習を窓口とした研修 教職員のニーズに応じた職員研修 (SUT) と授業研で高め合う「南の丘 OJT」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は、ICT 機器を使用した授業づくりをしている。 教職員は、「見取り・評価・改善」を視点に、生徒が夢中になって取り組める単元・授業づくりをしている。 生徒は、授業で分かったことを基に成果や課題を書いたり、自分の考えを発言したりしている。 	教務 研修
	教職のやりがいをおおいにした業務のスリム化と教職員の時間への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 議題の精選、簡潔な提案による会議時間の順守 学習集団、指導体制の随時見直しと事務研修時間の確保 業務3分類による内容の見直し (縮小、削減) 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は、特別な場合を除き、1日に1回は事務処理時間を確保している。 	学部 学年 管理職
安全・安心	自分の健康を守る習慣と環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上、健康、性の指導、心の教育の推進 生徒の実態に応じた外部講師、出前講座の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は、自分で目標を立てて体力づくりに取り組んでいる。 	保健体育
		<ul style="list-style-type: none"> 日常に般化できる学習内容の共有 生徒が活用できる「わたしナビゲーション (チェックリスト)」の見直し スクールカウンセラーとの面談の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は、生活への般化を意識した自立活動の授業づくりをしている。 生徒は、困っていることや不安、悩みなどを教職員やスクールカウンセラーに相談している。 	自立活動 コーディネーター
	自分の命を守る意識と行動力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な避難訓練及び事前事後指導の実施 防災倉庫の備蓄品等の整理整頓 人権教育、いじめ防止教育の推進 (SNS) 生徒主体の生徒会活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・教職員は、自分で考えて身を守る行動をとることができる。 生徒・教職員は、相互に挨拶するなど人権が尊重される人間関係づくりをしている。 	指導
連携	高校との共生共育及び地域資源を活用した学習 (地域貢献活動) の充実	<ul style="list-style-type: none"> 高校との授業交流の推進 作業学習や防災学習を通じた地域への貢献や発信 地域資源を活用した学習の計画、実施 ホームページや学年だよりによる時期を逃さない発信 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は、高校や地域と相互に連絡を取り合い、交流活動等を実施している。 生徒は、高校との授業交流や地域との交流に主体的に取り組んでいる。 	学部 管理職 学校運営協議会
	進路希望実現に向け、本人が納得して進む進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が活用できるキャリアパスポートの見直し 教師との対話による職場実習の振り返り 「仕事図鑑」の作成・活用 P T A と連携した保護者対象進路学習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は、卒業後の生活をイメージして、実習報告会や仕事図鑑等の資料から職種を理解して実習先等を選択している。 保護者は、職場実習説明会や実習報告会等に参加している。 	進路指導

4 監査対象期間における特色ある取組

<本校>

年度	取組概要	成果及び課題
6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、保護者の80%以上が「授業が楽しい」「学校が好き」と答え、一人一人が「楽しい」と思える授業づくりをすることができた。 ・「できるようになったことが増えた」と答える児童生徒は77.4%と、目標に達しなかった。専門性を高め、児童生徒が「やった」「できた」と達成感や満足感を感じることができる支援、指導の工夫をしていく。 ・講習会を実施したり実践事例を発信したりしたことで、多くの教員がICTを使用した授業実践に積極的に取り組むことができた。 ・OJTのペアを組んだり、場を設けたりしたことで、授業づくりや教材研究などについて伝え合うことができた。また、普段からTTで指導や支援について話をすることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・未然防止への行動力と有事への対応力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例と今後の対応や改善策を学校全体で周知し、再発防止に努めることができた。 ・詳細な実施計画に代えて危機管理マニュアルを活用した訓練を行うことで、各職員が自分で判断して行動することができた。今後も様々な状況下を想定した防災訓練を実施する。 ・感染症対策、熱中症予防等の呼び掛けや、環境確認の実施を行い、熱中症や感染症の拡大はなかった。 ・工事を見据えて、学習内容や活動場所などを計画することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな地域資源への深い理解と、それを活かした実践、発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・「麻活」の良さを見直すと共に、PC掲示板等を使って、各学部の取り組みを学校全体で共有することができた。また、50周年式典に向けての取組の中で、児童生徒も他学部の麻活について知ることができた。 ・ホームページやお便りなどで麻活の取組を定期的に発信した。今後も地域を有効的に活かした教育活動として、麻活を伝えていく。
7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の実態を把握し、ニーズに合った支援の計画を立て指導している教職員100% ・個別の指導計画における自立活動の目標設定の仕方について理解が深まったと答える教員80% ・授業が楽しい、できるようになったことが増えて

		<ul style="list-style-type: none"> いると答える児童生徒や保護者80%以上 ・学習指導要領の目標・内容、単元や題材の持ち味、魅力等から授業の根拠を語る事ができている教員100% ・情報が授業づくりで参考にしたたり、ICTのよさを生かした授業実践に挑戦したりしている教員 90%以上
	・未然防止への行動力と有事への対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶と感謝の言葉がよく聞かれているという保護者90%以上、職員100% ・児童生徒の人間関係や学習上・生活上困っていることの積極的な把握に努め、早期に組織で対応していると答える教員100% ・保健給食課の手引きや防災課の危機管理マニュアルを活用し、適切な対応や行動をとることができている教員100% ・本校の防災に関する課題の把握と改善に努めている職員の割合100% ・学習中のけがや病気の発生ゼロを目指し、具体的な予防策に取り組んでいる教員100%
	・豊かな地域資源への深い理解とそれを活かした実践、発信	<ul style="list-style-type: none"> ・麻活を題材とした授業実践を行っている、または活用しようと検討した教員100% ・「麻活」に関する図書を授業づくりの参考にしている教員80% ・本校のホームページを年間2回以上閲覧し、教育活動を知ったり（麻活含む）情報を得たりする保護者90%以上 ・ホームページで「夢中と笑顔」を発信できたと答える教員 100%

<南の丘分校>

年度	取組概要	成果及び課題
6年度	・作業学習を窓口とした学部研修	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの職業科を窓口とした研修の成果を踏まえ、作業学習の授業づくりを行った。 ・生徒が自立活動チェックリストを基に設定した目標を作業学習の担当教師と共有し、作業学習での目標設定に生かすことができた。 ・作業種について、取り組む意義や価値を教師が再確認し、年間指導計画を見直すことができた。また、地域資源の活用や地域への貢献をキーワードに、作業学習の単元構成を見直した。
	・日課に位置付けた自立活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分を客観視し、自己理解を深めるためにチェックリストを活用し、教師との対話を重ねて記入することができた。 ・担任と授業担当者の情報共有や自立活動と他教科との関連を意識した目標設定について、職員研修を実施した。自立活動の充実に向けて、継続して実践例の紹介や生徒のあらかの情報の共有を行う。
	・学校運営協議会の組織を活用した地域へ向けた発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員の協力を得て、地域資源の活用や地域のイベント情報を収集することができた。

		今後の生徒の継続的な活動につながるように、連絡調整を継続していく。 ・学年便りのホームページへの活用を継続し、生徒の活動の様子が端的に伝わるように、画像を多く取り入れて更新した。
7年度	・「学び、考え、発信し合う」姿を引き出す授業の充実	・作業学習を窓口とした研修を行う。 ・教職員のニーズに応じた職員研修（SUT）と授業研で高め合う「南の丘OJT」を推進する。
	・自分の命を守る意識と行動力の育成	・実践的な避難訓練及び事前事後指導を実施する。 ・防災倉庫の備蓄品等の整理整頓を行う。 ・人権教育、いじめ防止教育を推進（SNS）する。 ・生徒主体の生徒会活動の充実を目指す。
	・高校との共生共育及び地域資源を活用した学習（地域貢献活動）の充実	・高校との授業交流を推進する。 ・作業学習や防災学習を通じた地域への貢献や発信を行う。 ・地域資源を活用した学習を計画、実施する。 ・ホームページや学年だよりによる時期を逃さない発信を行う。

5 教職員について

(1) 令和7年度異動状況

<本校>

職名 区分	本務職員									本務計	臨時職員		会計年度任用職員								臨時・会計年度計	合計	
	教育職員						行政職員				教諭	事務職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	非常勤講師	医療的ケア看護職員	実習支援指導員	就労促進専門員	スクールカウンセラー				
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	事務職員											小計			
転出		1		21			22		2	2	24	1									1	25	
退職				5			5	1		1	6	9			2	1	1			1	1	15	21
役職定年																							
転入		1		16			17		2		19	1										1	20
新任				7			7	1			8	5			2	3	2	1		1	1	15	23
差引増減	0	0	0	△3	0	0	△3	0	0	0	△3	△4	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	△3

<南の丘分校>

職名 区分	本務職員				本務計	臨時職員		会計年度任用職員		臨時計	合計
	副校長	教頭	教諭	養護教諭		教諭	主事	非常勤労務職員	非常勤講師		
転出			3	1	4						4
退職						1				1	1
役職定年											
転入			5	1	6						6
新任											
差引増減	0	0	2	0	2	△1	0	0	0	△1	1

(2) 現員数

職名 区分	本務職員											本務計	臨時職員		会計年度任用職員									臨時・会計年度計	合計		
	教育職員						行政職員						教諭	主事	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	非常勤講師	医療的ケア看護職員	実習支援指導員	就労促進専門員	スクールカウンセラー						
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	小計	事務長	主査	主任	主事											小計					
本校	1	1	1	139	2	1	145	1	2	1		4	149	27		10	4	1	1	1	1	1	1	1	1	46	195
分校			1	21	1		23						23	1	1	1										3	26
合計	1	1	2	160	3	1	168	1	2	1		4	172	28	1	11	4	1	1	1	1	1	1	1	49	221	

(3) 健康管理について

<本校>

ア 教職員数が多いため、円滑に学校運営を進めるためには教職員のメンタルヘルスの充実が必要であると考え、平成25年度から職員安全衛生委員会のテーマを「教職員のメンタルヘルス」とし、教職員の心身の健康管理に取り組んでいる。毎月の各職員の時間外勤務の時間数を調べ、時間外勤務の多い職員に対しては業務の状況や健康状態を確認し、教頭、各学部主事が個別に言葉掛けをしている。

(ア) メンタル面に対する学校としての取り組み

健康、仕事、家庭等に対する心配事等については、教職員人事評価面談等の機会に、管理職が聞き取ったり、相談窓口等を紹介したりしている。

(イ) 感染症等防止への取り組み

職員安全衛生委員会の助言者である校医(内科医)、学校薬剤師に学校職員の職場環境についてお知らせし、助言をいただいている。

イ 静岡県公立学校共済組合が主管する職場の健康づくり支援事業を活用し、7月14日に講師を招聘し教職員の健康の保持増進を目的に講話を聴いた。

ウ 平成30年6月より、話し合いの時間と個人の業務の時間を分けて、効率的に業務を遂行できるように工夫している。毎週水曜日及び月末金曜日を定時退勤日と定め、完全実施を目指し取り組んでいる。

さらに勤務時間終了時刻に留守番電話化を実施するなどワーク・ライフ・バランスの向上を図っている。

エ 健康診断については、対象者全員が健診を実施し、必要な検査や医療機関の受診を必ず済ませるよう勧めている。結果については健康管理医に報告し、一人一人の結果について指導助言を受け各自の健康管理に努めている。

<南の丘分校>

ア 学校職員衛生委員会で、メンタルヘルスを含めた教職員の健康状態、業務の偏りや遂行能力について共通理解し、言葉掛けや業務割り振り等の配慮を行っている。また、7月に職場の健康づくり支援事業を活用し、教職員のニーズを基に腰痛・肩こり解消のためのストレッチ等を行う。パソコン業務で固まりがちな体をリラックスさせる方法を学ぶ研修とする。

イ ワークライフバランスを大切にする意識が高まり、時間外勤務の縮減が進んでいる。さらに業務の重なり調整や会議の効率化を図っている。毎週水曜日を定時退勤日と定め、完全実施を目指し取り組んでいる。

ウ 職員同士の対話を重視し、お互いの気付きを伝え合うことで、チームとして風通しのよい職場づくりを推進している。管理職は部主事や学年主任と情報共有し、職員の心の有り様の把握にも努め、言葉掛けを心掛け、話しやすい職場となるよう努めている。また、自身の健康や業務遂行、家庭に対する心配事等について、教職員人事評価面談等の機会に、管理職が聞き取ったり、個別に対応したりしている。特に、新任教員への声掛けや異動一か月後を目安に面談を実施するなど、相談のきっかけづくりに取り組んでいる。

(4) 教職員の研修について

<本校>

本校は、昭和49年の開校時から「自分から精いっぱいがんばる人を育てるために」を研究主題に挙げ、知的障害教育校としての実践に取り組んできた。当時は、教育課程や教育方法を模索する中で、何が最も重要な研究目標であるかが議論され、その結果、すべてのことに「精いっぱいがんばる」子どもを育てようという結論に達した。『精いっぱいがんばる』ことが、自己の潜在能力を顕在化し、精神的にねばりのある強い人を育てることになる。ひいては学校という集合の有機体を作りあげる（研究紀要1より抜粋）という先人たちの精神は、本校の合言葉である「みんなと仲よく、明るく元気に、せいいっぱいがんばるひと」に受け継がれている。

令和6年度から、学校教育目標『『夢中』と『笑顔』で共生社会を生きるひと』の実現に向けて、研修主題を『『夢中』になって取り組み、できた喜びに『笑顔』輝く姿を目指して』とし、重点テーマを「児童生徒の思いを生かし、一人一人の学びがつながり、ひろがる授業づくり」に設定した。

目標や目的をもち、最後まで思い切り活動に取り組む姿を「夢中」、学習の中で主体的に様々な力を身に付けたり、発揮したりすることで「できた」を感じる姿を「笑顔」と捉え、せいいっぱい

の「夢中」と「笑顔」の姿を引き出す授業づくりを通して、児童生徒一人一人の自立と社会参加の実現に向けた実践を行っていく。

ア 研修の目的

研修主題 「夢中」になって取り組み、できた喜びに「笑顔」輝く姿を目指して
授業づくりの重点 児童生徒の思いを生かし、一人一人の学びがつながり、ひろがる授業づくり

研修テーマ 小学部：目的に向かって「もっとやりたい」と自分から取り組む姿を目指した授業づくり
中学部：生徒の思考に沿い、単元構想の展開を工夫した授業づくり
高等部：『思いを実現しようと自分から取り組む姿』を目指した授業づくり

イ 研修の内容

(ア) 全体研修

・全職員で学校全体の研修の取組や方向性について共通理解する。

(イ) 授業づくり

・学部ごとの研修テーマに基づき、PDR サイクルに基づいた授業研究を行う。窓口となる授業は、各教科等を合わせた指導とする。また、学習指導要領の理念を踏まえた目標設定や評価の仕方の充実にも取り組んでいく。

(ウ) 職員研修

・教師の専門性を高め、児童生徒理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくりを目指した職員研修を実施する。

ウ 研修の方法

(ア) 全体研修

年間4回行い、全職員で学校全体の研修の取組や方向性について共通理解する。

(イ) 授業づくり

a グループ研修

研修主題と授業づくりの重点を踏まえて、学部ごとの研修テーマを設定し、PDR サイクルに基づいた授業研究を行う。窓口となる授業は、各教科等を合わせた指導とする。

b 授業研究会

各学部で年間2回の授業研究会（うち1回は公開授業研究会とする）を実施する。学部ごと助言者（外部講師）を招聘し、指導助言を授業改善や授業力向上につなげる。授業者は各学部で設定をする。

(ウ) 職員研修

教師の専門性を高め、児童生徒理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくりを目指し、以下のような職員研修を実施する。

a 静北版OJT研修

校内においてメンターとメンティを設定したOJT研修を実施する。学校のあらゆる場面で「教師の『技』」（教育技術）を伝え合うことで、専門性の共有や蓄積を図るとともに、「教え、教えられること」により、教員一人一人の力量の向上を目指す。

年次別研修対象者（2、6年次）は、学部主事、学年主任、中堅研修対象者といったメンターと、日常的な「技」の伝え合いとともに、研究授業の実践を通して授業力の向上を図る。

b 夏のOJT研修

中堅研対象者を中心とした講師が、校内職員に向けた自身の経験に基づく講座を開講する。

c 年次別研修者を中心とした授業研究

窓口以外の授業研究についても、積極的に教員の参観を促し、授業者及び参観者相互の授業力の向上を図る。

d 学部間交流

キャリア教育の視点をテーマとした学部間交流を行い、児童生徒の発達の具合や発達段階に応じた指導方法を学び、専門性の向上を図る。

エ 研修の計画

(ア) 授業づくりにおいて、研修主題を受け各学部で研修の内容や方法を検討し、学部内での授業研究（事前・事後研修）を計画的に実施する。

(イ) 各学部で助言者を招き、年間を通じて研修の方向性や授業づくりに関する指導助言を仰ぐ。

(ウ) 年間2回、学部ごと授業研究会を実施し、そのうち1回を公開授業研究会とする。

<南の丘分校>

令和4年度及び令和5年度は、進路学習と深いかかわりのある職業科の授業の更なる充実を求め、職業科を研修の窓口にした。

研修では、生徒が自己理解を深め、主体的に進路決定をしたり、将来の生活などを考えたりすることができるようになるために、「環境設定の工夫」「教材教具の工夫」「教師の関わりの工夫」「活動の工夫」に着目して授業づくりを進めてきた。

令和6年度からは2年研究として、教育課程の柱である作業学習を窓口として、作業学習をはじめ学校生活全体で自分と向き合い、いきいきと働く人の育成を目指すために、作業学習の授業づくりについて研修に取り組んできた。

ア 研修の目的

研修テーマ：自分と向き合い、自分の目指す姿に向かって働く力を身に付ける作業学習
～見取り、評価、改善～

研修の目標：見取り、評価、改善に焦点を当て、RPDCAサイクルを確立しながら授業改善、授業力向上を図る。

イ 研修の内容

(ア) 「見取り、評価、改善」をキーワードに、生徒個人（個別最適な学び）、学習集団（協働的な学び）の2つの側面で、実態把握、目標設定、評価を行う。

(イ) 作業学習の年間指導計画について「何を」「どの時期に学ぶのか」焦点化、明確化、系統性を見直す等、カリキュラムマネジメントを行う。

ウ 研修の計画

(ア) 月1回、研修内容の(ア)(イ)について、研修を進める。

(イ) 授業研究を年3回実施し、そのうち1回を公開授業研究会とする。

(ウ) 助言者を招き、生徒理解、自己理解、支援方法や授業づくりに関して研修を行う。

(エ) 自立活動の時間における指導での支援・指導の充実を目的に、外部講師を招聘し研修する。

6 防災対策について

<本校>

(1) 令和6年度

ア 防災教育・防災訓練

学校防災安全計画に基づき、以下の日程で防災訓練及び防災教育を実施した。

回	訓練・日時・対象	活動内容及び対象別目的
1	【地震・火災訓練】 (通報、初期消火、屋外避難) 4月19日(金) ・事前予告あり ・避難経路確認	【児童生徒】 ・安全に自分の命を守る第一次避難の方法を身に付ける。 ・指示に従って安全に避難したり待機したりする。 【教職員】 ・地震火災発生の発見から避難までの連携を迅速に行う。 ・役割を知り、児童生徒を安全かつ速やかに誘導する。
2	【引き渡し訓練】 6月21日(金) 対象者：小中学部、高等部 1年生、 小学部4年生 前年度不参加者 転入生	【児童生徒】 ・有事の際、待機や引き渡しがあることを知る。 ・指示に従って落ち着いて待機する。 【保護者】 ・手順に従い、児童生徒を安全に引き受けられることができる。 【教職員】 ・引き渡し手順を確認するとともに課題を明らかにする。 ・児童生徒を安全かつ速やかに待機誘導する。 ※中央特支と日程調整ができた場合は合同で実施する。
3	【災害伝言ダイヤル171録音再生体験訓練】 (学校が入力した伝言を聞く) 7月1日(月)	【保護者・全職員】 ・災害用伝言ダイヤル171の録音再生手順を知り、有事の際に活用できるようにする。
4	【地震・火災訓練】 (通報・初期消火・避難) 8月29日(木) ・事前予告あり	【児童生徒】 ・自らの命を守るための安全な行動をとる。 ・体験的な学習を通じ、発災時や避難時の様子や適切な行動を知る。 【教職員】 ・安全な場所へ速やかに安全に避難誘導する。
5	【web171体験訓練】 (入力した伝言を確認する) 8月29日(木)	【保護者・教職員】 ・web171のメッセージ閲覧方法を知り、有事の際に活用できるようにする。
6	【水害、崖崩れ等訓練・体験学習】 10月23日(水) ・時刻予告あり ・消防署員等を招聘し、体験的な訓練を実施 ・非常食、寝袋体験	【児童生徒】 ・自らの命を守るための安全な行動をとる。 ・体験的な学習を通じ、発災時や避難時の様子や適切な行動を知る。 【教職員】 ・安全な場所へ速やかに安全に避難誘導する。

7	【地震・抜き打ち避難訓練】 (地震) ・11月以降に実施 ・日時予告なし ・発災後の行動も想定する	【児童生徒】 ・これまでの訓練で経験したことや学んだことを活かし、教師の指示を聞いて自分の身を守るとともに、落ち着いて避難する。 【教職員】 ・自身の役割と周囲の状況を踏まえ、最適な動きで考えて行動する。 ・発災後、児童生徒が安全かつ健康に過ごすために必要なことや改善すべきことを明らかにする。
8	【シェイクアウト訓練】 ・1月以降に実施	・火災、地震発生直後の初期動作の確認 ・火災、地震の発生直後に命を守るための初期動作を身に付ける。

スクールバス防災計画

	日時・対象	活動内容及び対象別目的
1	【スクールバス図上訓練】 7月1日(火)	【小・中学部職員】 ・スクールバス運行ルートや災害時のマニュアル、避難地等について知る。 ・バスとの連絡や児童生徒の引き渡し等について対応策や課題を考える。
2	【スクールバス防災訓練】 9月3日(水)	【介助員・運転手】 ・スクールバス乗車中における地震や緊急事態の発生時に、速やかな状況判断や児童生徒の身の安全確保の対応ができるようにする。 【児童生徒】 ・介助員や運転手の指示に従って身を守る姿勢をとったり、指示に従ってバス内で待機したりする。

職員研修計画

	日時・対象	活動内容及び対象別目的
1	【初期消火班研修】 4月12日(金) 対象者：初期消火班担当 初任者	・消火器や大型消火器の設置場所を確認する。 ・消火器の使い方、消火時のポイントや注意事項を確認し、火災発生時の自分の役割について理解する。 ・防火扉の開閉方法を確認する。
2	【災害時役割別研修】 4月15日(月) 対象者：災害時の各班担当	・校内巡視班や救護班など、災害発生時の自分の役割について確認する。
3	【職員防災研修】 7月31日(水) 午後	・講師を招聘し、児童生徒のとめ置きや福祉避難所の運営について必要な知識を学ぶ。 ・本校の実態を踏まえ、必要な手立てや配慮すべきことなど課題を明らかにし、解決策を見出す。

(2) 令和7年度

ア 防災教育・防災訓練

学校防災安全計画に基づき、以下の日程で防災訓練及び防災教育を実施する。

回	訓練・日時・対象	活動内容及び対象別目的
1	【地震避難訓練】 (通報、屋外避難) 4月18日(金) ・事前予告あり ・避難経路確認	【児童生徒】 ・安全に自分の命を守る第一次避難の方法を身に付ける。 ・指示に従って安全に避難したり待機したりする。 【教職員】 ・地震発生から避難までの連携を迅速に行う。 ・役割を知り、児童生徒を安全かつ速やかに誘導する。
2	【引き渡し訓練】 6月20日(金) 対象者：小中学部、高等部 1年生 小学部4年生 前年度不参加者 転入生	【児童生徒】 ・有事の際、待機や引き渡しがあることを知る。 ・指示に従って落ち着いて待機する。 【保護者】 ・手順に従い、児童生徒を安全に引き受けられることできる。 【教職員】 ・引き渡し手順を確認するとともに課題を明らかにする。 ・児童生徒を安全かつ速やかに待機誘導する。
3	【災害伝言ダイヤル 171 録音再生体験訓練】 (学校が入力した伝言を聞く) 7月1日(火)	【保護者・全職員】 ・災害用伝言ダイヤル171の録音再生手順を知り、有事の際に活用できるようにする。
4	【地震、土砂災害訓練・体験学習】 9月3日(水) ・事前予告あり ・垂直避難 ・非常食体験	【児童生徒】 ・自らの命を守るための安全な行動をとる。 ・体験的な学習を通じ、発災時や避難時の様子や適切な行動を知る。 【教職員】 ・安全な場所へ速やかに安全に避難誘導する。
5	【web171 体験訓練】 (入力した伝言を確認する) 9月3日(水)	【保護者・教職員】 ・web171のメッセージ閲覧方法を知り、有事の際に活用できるようにする。
6	【火災避難訓練・体験学習】 10月22日(水) ・時刻予告あり ・消防署員等を招聘し、体験的な訓練を実施 ・防災体験学習	【児童生徒】 ・自らの命を守るための安全な行動をとる。 ・体験的な学習を通じ、発災時や避難時の様子や適切な行動を知る。 【教職員】 ・安全な場所へ速やかに安全に避難誘導する。
7	【地震、火災・抜き打ち避難訓練】 (地震)	【児童生徒】 ・これまでの訓練で経験したことや学んだことを活かし、教師の指示を聞いて自分の身を守るとともに、落ち着いて避難する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・11月以降に実施 ・日時予告なし ・発災後の行動も想定する 	【教職員】 <ul style="list-style-type: none"> ・自身の役割と周囲の状況を踏まえ、最適な動きで考えて行動する。 ・発災後、児童生徒が安全かつ健康に過ごすために必要なことや改善すべきことを明らかにする。
8	【シェイクアウト訓練】 <ul style="list-style-type: none"> ・11月以降に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災、地震発生直後の初期動作の確認 ・火災、地震の発生直後に命を守るための初期動作を身に付ける。

スクールバス防災計画

	日時・対象	活動内容及び対象別目的
1	【スクールバス図上訓練】 7月5日（金）	【小・中学部職員】 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行ルートや災害時のマニュアル、避難地等について知る。 ・バスとの連絡や児童生徒の引き渡し等について対応策や課題を考える。
2	【スクールバス防災訓練】 8月30日（金）	【介助員・運転手】 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス乗車中における地震や緊急事態の発生時に、速やかな状況判断や児童生徒の身の安全確保の対応ができるようにする。 【児童生徒】 <ul style="list-style-type: none"> ・介助員や運転手の指示に従って身を守る姿勢をとったり、指示に従ってバス内で待機したりする。

職員研修計画

	日時・対象	活動内容及び対象別目的
1	【初期消火班研修】 4月11日（金） 対象者：初期消火班担当 初任者	<ul style="list-style-type: none"> ・消火器や大型消火器の設置場所を確認する。 ・消火器の使い方、消火時のポイントや注意事項を確認し、火災発生時の自分の役割について理解する。 ・防火扉の開閉方法を確認する。
2	【災害時役割別研修】 4月14日（月） 対象者：災害時の各班担当	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視班や救護班など、災害発生時の自分の役割について確認する。
3	【職員防災研修】 7月30日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘し、土砂災害の発生状況や土砂災害を防ぐためのハード対策について知る。 ・本校の実態を踏まえ、必要な手立てや配慮すべきことなど課題を明らかにし、解決策を見出す。

イ 南海トラフ巨大地震に備えて

『危機管理マニュアル』を基に、緊急時の対応について職員に周知徹底を図っている。避難訓練の際には、『あおいも』を合言葉に安全に避難できるように訓練を繰り返している。

また、抜き打ちの訓練や放送機器故障による口頭伝達訓練、不明者救出・負傷者救護訓練などの多種多様な訓練を行うことで、職員の危機対応力の向上に努めている。

ウ 引き渡しルートの周知並びに引き渡し訓練の実施

本校は、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」が発表された時点で、児童生徒の保護者への引き渡しが計画されている。今年度は、南海トラフ地震に関連する情報（臨時）が発生したことを想定し、予定通り行うことを連絡した上での訓練を実施した。

エ 職員による防災研修並びに防災教育・防災訓練の拡充

保護者に向けて防災に向けた意識の向上と理解の啓発を促進するため、「災害用伝言ダイヤル171の再生訓練」や「Web171の利用体験訓練」、「地域で実施される防災訓練への参加」を呼び掛ける。

<南の丘分校>

(1) 令和6年度

防災訓練・防災教育

以下の日程で防災訓練及び防災教育を実施した。

回	訓練・日時・対象	活動内容・目的
1	【地区別防災集会】 4月19日（金） （生徒、駿河総合高校と合同）	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごと集合し、顔合わせをする。 ・居住地のハザードマップ調べ（分校生徒のみ） ・危険箇所や避難経路の確認ができる。
2	【防災避難訓練（地震）】 6月9日（金） （生徒、駿河総合高校と合同）	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時を想定し、安全の確保とグラウンドへの避難を行う。 ・地震発生時や「南海トラフ地震に関連する情報」（臨時）が発表された場合に、的確な行動がとれるようにする。 ・防災避難経路の確認を行う。
3	【救急法講習会】 7月1日（火） （分校職員）	<ul style="list-style-type: none"> ・AED（自動体外式除細動器）の使用を含む心肺蘇生法について知り、緊急時に生徒の安全と命を守る行動ができる。
4	【災害用伝言ダイヤル171訓練】 7月1日（火） （分校生徒）	<ul style="list-style-type: none"> ・録音された伝言の確認とメモ、自分で考えた伝言の録音を行う。 ・災害時に、保護者、家族と連絡を取るための方法を学ぶ。 ・落ち着いて操作するための具体的なやり方を覚え、実践で使える技術を覚える。
5	【総合防災学習Ⅰ】 8月31日（木） （分校生徒）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、市町から発令される避難情報等について、言葉や意味、避難するタイミングを知ることができる。 ・体験型学習では、グループのメンバーと話し合いながら防災対策を考えたり、防災に関する知識を身に付けたりする。（大雨、洪水、台風又は暴風等を想定）
6	【救急法講習会】 9月12日（火） （分校3年生）	<ul style="list-style-type: none"> ・AED（自動体外式除細動器）の使用を含む心肺蘇生法について知り、緊急時に自他の安全と命を守る行動ができる。
7	【救急法講習会】 10月17日（火） （分校1年生）	<ul style="list-style-type: none"> ・AED（自動体外式除細動器）の使用を含む心肺蘇生法について知り、緊急時に自他の安全と命を守る行動ができる。
8	【シェイクアウト訓練】 11月2日（木） （分校生徒）	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生直後の初期動作の確認。 ・地震の発生直後に命を守るための初期動作を身に付ける。
9	【防災避難訓練（火災）】 11月10日（金） （生徒、駿河総合高校と合同）	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドへの避難、スモークハウス体験、消火体験、救助袋降下体験を行う。 ・火災発生時に的確な行動がとれるようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の確認を行う。 ・生徒の安全かつ迅速な避難の徹底。 ・学年別訓練により緊急時の対応について学ぶ。
10	【総合防災学習Ⅱ】 12月19日（火） （分校生徒）	<ul style="list-style-type: none"> ・一日、防災学習での学びを通し、防災に関する知識を深めると共に、避難所運営ゲーム（HUG）、非常食体験、テントやトイレの設営を体験する。 ・災害時、市町から発令される避難情報について言葉や意味、避難するタイミングを知り、居住地区別ごと、避難方法を探った。地域の防災を担う者である自覚を育てる。 ・家庭での災害時の対応について、保護者が生徒と一緒に確認する。
11	【非常食体験】 12月19日（火） （分校生徒）	<ul style="list-style-type: none"> ・上記10の総合防災学習Ⅱ内で実施。 ・各自が用意した非常食を自分で調理し、昼食として体験を行う。 ・非常食の賞味期限をチェックし、補充と入れ替えを行う。

(2) 令和7年度

ア 駿河総合高等学校と緊急時の対応等について確認を行い、消防計画の内容について相互理解を深める。

イ 防災倉庫内の備蓄品の点検も行い、水や食料など不足分を買い足していく。

ウ 日々の学校安全に向け、職員一人一人が常に想像力を持ち、月1回の安全点検を継続していく。普段使用する教室の安全について意識できるようにしていく。

エ 保護者には、生徒の通学経路の把握と災害時の対応の確認を依頼し、防災意識の向上を行っていきたい。

オ 防災教育・防災訓練

命を意識した防災教育では、自分の身を守る知識・技能の向上を目指す。また、駿河総合高等学校と合同の訓練と分校独自の訓練を実施していく。

地域の防災に係る NPO 法人の方を招聘し、生徒が、災害時に市町から発令される避難情報の言葉の意味や避難するタイミングを知り、居住地区の避難方法を自分で調べる学習を行う。地域の防災を担う者である自覚を育てたい。

カ 不審者等防犯について

警察の方を招聘し、教職員が不審者防犯訓練を行い、対応を学んでいく。

キ 年間計画

回	日時・対象	活動内容
1	4月19日（金） 生徒、駿河総合高校と合同	地区別防災集会 （分校生徒のみ 居住地のハザードマップ調べ）
2	6月7日（金） 生徒、駿河総合高校と合同	防災避難訓練（地震）
3	7月1日（月）分校1年生	171災害用伝言ダイヤル訓練
4	7月1日（月）分校教職員	教職員救急法講習会
5	8月2日（金）分校教職員	不審者対応訓練
6	11月中	シェイクアウト訓練
7	11月8日（金） 生徒、駿河総合高校と合同	防災避難訓練（火災） スモーク体験、消火体験、避難シューター体験
8	12月20日（金）分校生徒	総合防災学習
9	12月20日（金）分校生徒	非常食体験

7 学校開放について

<本校>

地域に開かれた学校を目指して学校施設開放委員会を設置し、社会教育活動、文化活動、スポーツ活動等の生涯学習活動振興のため施設等を開放しているが、校舎建替計画中により、令和6年度及び令和7年度は実績なし。

<南の丘分校>

なし

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
学校教育に関すること	教育基本法（第 1 条、第 2 条、第 4 条） 学校教育法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 72 条、第 73 条、 第 74 条、第 76 条、第 77 条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第 5 条） 学校給食法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 4 条） 特別支援学校の高等部の学科を定める省令 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する 法律（第 1 条、第 2 条、第 3 条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則
学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第 137 条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第 33 条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第 21 条、第 22 条） 学校保健安全法（第 15 条、第 27 条） 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第 3 条、第 4 条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第 1 条、第 2 条、 第 3 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費 補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補 助金交付要綱

学校施設の概要

<本校>

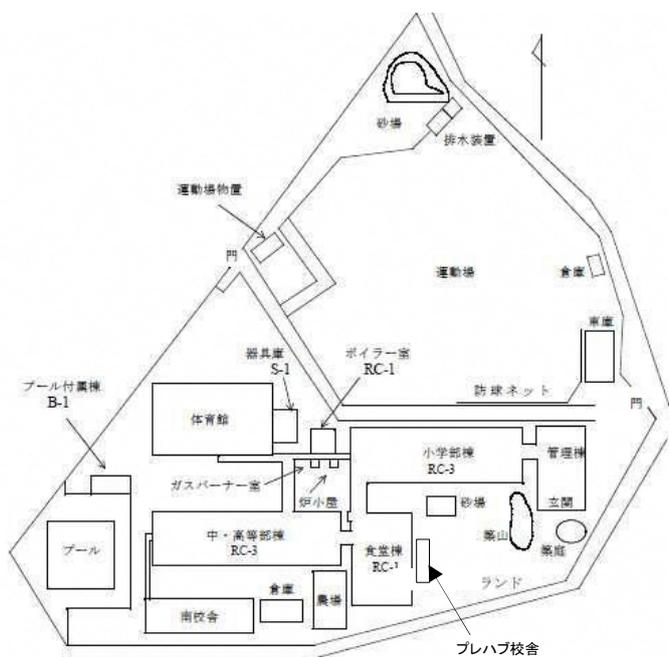
1 面積及び所有区分

(令和7年6月30日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	18,783.55					18,783.55	
内 訳	校 舎 敷 地	7,563.00				7,563.00	
	運 動 場 敷 地	6,900.00				6,900.00	
	そ の 他 の 敷 地	4,320.55				4,320.55	
実 習 地	42.40					42.40	
内 訳	畑	42.40				42.40	
校 舎	建 2,758.08	2,634.61				123.47	民有は狭隘化 対策に伴うプ レハブ校舎 建123.47m ² 延210.60m ² 借受期間令和4 年12月1日～令 和9年2月28日
	延 6,131.45	5,920.85				210.60	
体 育 館	建 500.25	500.25					
	延 500.25	500.25					
そ の 他 の 建 物	建 385.61	385.61					
	延 383.59	383.59					
プ ー ル	1	1					20×15m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	18,783.55 m ²	6,131.45 m ²	6,900.00 m ²
県平均	19,266.88 m ²	6,361.36 m ²	5,302.07 m ²

<南の丘分校>

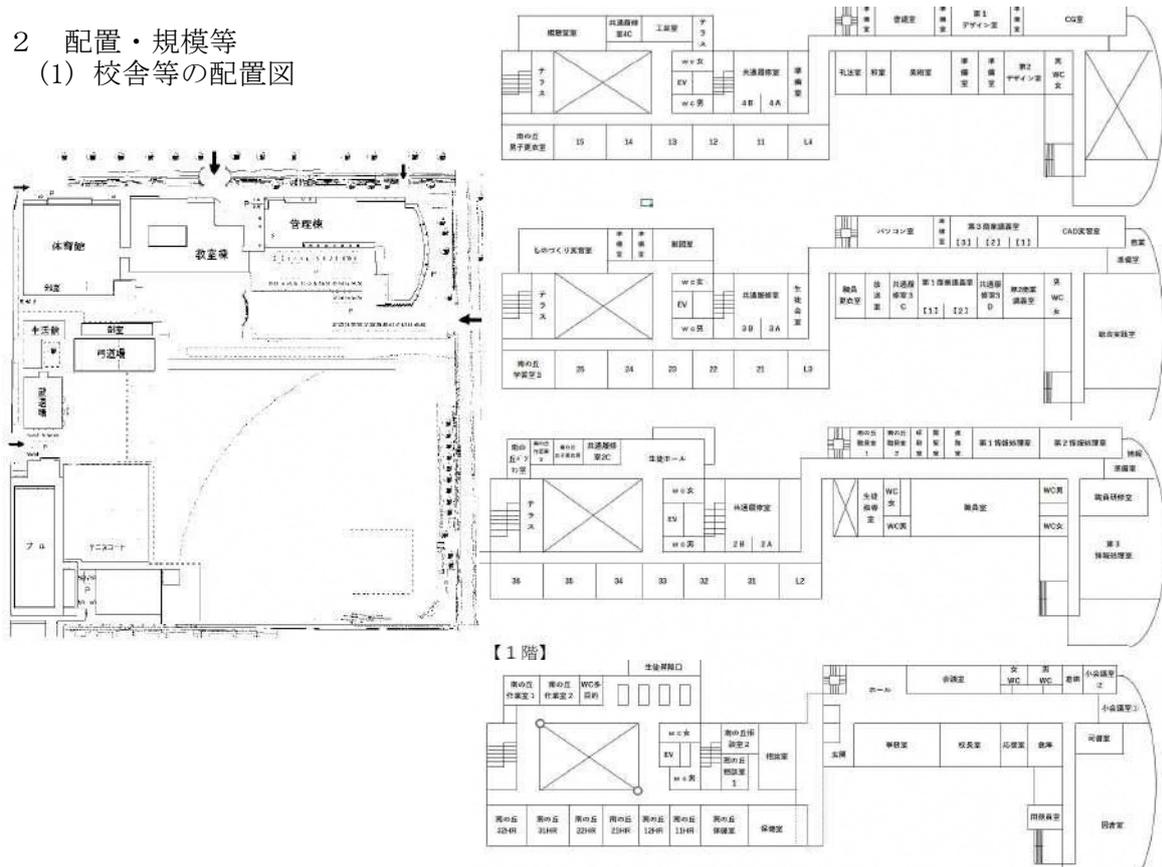
1 面積及び所有区分

(令和7年6月30日現在)

区分	面積 m ²	所有内訳					摘要
		県有 m ²	国有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民有 m ²	
学校敷地	810.69	810.69					駿河総合高等学校使用承認
内訳	校舎敷地						
	運動場敷地						
	その他の敷地	810.69	810.69				
校舎	建	572.75	572.75				駿河総合高等学校使用承認
	延	793.20	793.20				
その他の建物	建	48.54	48.54				駿河総合高等学校使用承認
	延	48.54	48.54				

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等 (法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	810.69 m ²	793.20 m ²	0 m ²
県平均			

在籍生徒調

(令和7年6月30日現在)

学年	学部 区分		小学部			中学部		
			男子	女子	計	男子	女子	計
1年	入学者		24	8	32	20	6	26
		増加 減少						
	現在		24	8	32	20	6	26
2年	入学者		26	3	29	17	4	21
		増加 減少						
	2年時当初		25	3	28	17	4	21
		増加 減少	1		1			
	現在		25	3	28	17	4	21
3年	入学者		15	7	22	16	7	23
		増加 減少						
	2年時当初		15	7	22	16	7	23
		増加 減少						
	3年時当初		15	7	22	16	7	23
		増加 減少	1		1			
現在		16	7	23	16	7	23	
4年	入学者		18	4	22			
		増加 減少	1	1	2			
	2年時当初		19	5	24			
		増加 減少		1	1			
	3年時当初		19	4	23			
		増加 減少	2		2			
	4年時当初		21	4	25			
		増加 減少	1		1			
現在		22	4	26				
5年	入学者		21	6	27			
		増加 減少	1		1			
	2年時当初		21	6	27			
		増加 減少	1		1			
	3年時当初		22	6	28			
		増加 減少	1	1	2			
	4年時当初		22	5	27			
		増加 減少	1		1			
	5年時当初		23	5	28			
現在		23	5	28				
6年	入学者		18	4	22			
		増加 減少						
	2年時当初		18	4	22			
		増加 減少						
	3年時当初		18	4	22			
		増加 減少						
	4年時当初		18	4	22			
		増加 減少	1		1			
	5年時当初		19	4	23			
		増加 減少						
6年時当初		19	4	23				
	増加 減少							
現在		19	4	23				
合計			129	31	160	53	17	70

学 年	学科 区分		高等部										
			本 校				南の丘分校				計		
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
1 年	入学者		57	33	17	50	27	16	11	27	49	28	77
	現 在	増加 減少											
				33	17	50		16	11	27	49	28	77
2 年	入学者		66	39	25	64	27	16	11	27	55	36	91
	2年時当初	増加 減少											
				3	2	5		1		1	4	2	6
	現 在	増加 減少											
				36	23	59		15	11	26	51	34	85
3 年	入学者		48	29	20	49	27	11	6	17	40	26	66
	2年時当初	増加 減少		1		1					1		1
				2		2					2		2
	3年時当初	増加 減少											
				28	20	48		11	6	17	39	26	65
	現 在	増加 減少		1		1					1		1
				27	20	47		11	6	17	38	26	64
合 計		171	96	60	156	81	42	28	70	138	88	226	

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		高等部 (本校)	高等部 (南の丘)								
生徒定員(A)		48	18	93	18	48	27	66	27	57	27
募集者数(B)		48	18	93	18	48	27	66	27	57	27
志願者数	男	33	21	51	17	29	11	39	19	34	17
	女	11	12	33	11	20	6	25	12	18	16
	計(C)	44	33	84	28	49	17	64	31	52	33
受検者数	男	33	21	51	17	29	11	39	19	34	17
	女	11	12	33	11	20	6	25	12	18	16
	計(D)	44	33	84	28	49	17	64	31	52	33
合格者数	男	33	14	51	10	29	11	39	16	34	17
	女	11	4	33	8	20	6	25	11	18	16
	計(E)	44	18	84	18	49	17	64	27	52	33
志願倍率 (C)/(B)		0.92	1.83	0.90	1.56	1.02	0.63	0.97	1.15	0.91	1.22
受検倍率 (D)/(B)		0.92	1.83	0.90	1.56	1.02	0.63	0.97	1.15	0.91	1.22
入学者数	男	33	11	51	10	29	11	39	16	33	16
	女	11	7	33	8	20	6	25	11	17	11
	計(F)	44	18	84	18	49	17	64	27	50	27
充足率 (F)/(A)		0.92	1.00	0.90	1.00	1.02	0.63	0.97	1.00	0.88	1.00

卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部				合 計
			本校		南の丘分校		
			本 科	専攻科	本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制						
	定時制						
	通信制						
特別支援学校高等部		22					22
その他高等学校等							
大学等	大学(学部)						
	短期大学(本科)						
	大学・短大の通信教育学部等						
	その他大学等						
特別支援学校高等部専攻科							
専修学校(専門課程)							
専修学校(一般課程)・各種学校							
公共職業能力開発施設等							
就 職			19		17		36
上記以外 ※			61		1		62
不詳・死亡							
計(卒業生総数)		22	80		18		120

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部				合 計
			本校		南の丘分校		
			本 科	専攻科	本 科	専攻科	
児童福祉施設							
障害者支援施設			59		1		60
(うち就労系支援事業利用者)			39		1		40
医療機関							
計			59		1		60

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和7年6月30日現在)(単位:人)

市町名		静岡市	その他	合計	
生徒数	本校	小学部	160	160	
		中学部	70	70	
		高等部	156	156	
		計	386	0	386
	南の丘分校	高等部	70		70
		計	70	0	70
合計		456	0	456	
構成比%		100.0%	%	100.0%	

(2) 通学方法

(令和7年6月30日現在)(単位:人)

区分		スクールバス通学者(スクールバス停まで)				その他の通学者(自立通学者等)				合計	
		徒歩又は自転車	路線バス等	自家用車等	計	徒歩又は自転車	路線バス等	自家用車等	計		
生徒数	本校	小学部	31	0	103	134	3	0	23	26	160
		中学部	13	0	47	60	1	3	6	10	70
		高等部				0	26	88	42	156	156
		計	44	0	150	194	30	91	71	192	386
	南の丘分校	高等部					44	26	0	70	70
		計				0	44	26	0	70	70
合計		44	0	150	194	74	117	71	262	456	
構成比%		9.6%	0.0%	32.9%	42.5%	16.2%	25.7%	15.6%	57.5%	100%	

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年6月30日現在)(単位:人)

区分		高等部							
		本校				南の丘分校			
		運動部	文化部	未加入者	計	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		4	1	/	5	2	1	/	3
男子	1年	8	3	22	33	12		4	16
	2年	14	2	20	36	11		4	15
	3年	14	1	12	27	6		5	11
	計(A)	36	6	54	96	29	0	13	42
	構成比	37.4%	6.3%	56.3%	100.0%	69.0%	0.0%	31.0%	100.0%
女子	1年	3	2	12	17	3	5	3	11
	2年	9	1	13	23	2	5	4	11
	3年	6	2	12	20	1	2	3	6
	計(B)	18	5	37	60	6	12	10	28
	構成比	30.0%	8.3%	61.7%	100.0%	21.4%	42.9%	35.7%	100.0%
合計	(A+B)	54	11	91	156	35	12	23	70
	構成比	34.6%	7.1%	58.3%	100.0%	50.0%	19.3%	22.6%	100.0%

3 障害別児童生徒数

(令和7年6月30日現在)(単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計	学級数	
小学部	本校	単一障害	16	14	16	9	13	11	79	16
		重複障害	16	14	7	17	15	12	81	29
	合 計	32	28	23	26	28	23	160	45	
中学部	本校	単一障害	14	13	19				46	10
		重複障害	12	8	4				24	9
	合 計	26	21	23				70	19	
高等部	本校	単一障害	47	56	44				147	18
		重複障害	3	3	3				9	3
	南の丘分校	単一障害	27	26	17				70	8
		重複障害								
	合 計	77	85	64				226	29	

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年6月30日現在)(単位:人)

区 分		知的障害のみ	自閉症スペクトラム障害を伴う知的障害	ダウン症候群などの染色体異常を伴う知的障害	てんかんなどの脳性疾患を伴う知的障害	その他の障害を伴う知的障害	合 計
本 校	小学部	16	90	28	9	17	160
	中学部	6	37	16	6	5	70
	高等部	61	61	23	7	4	156
	計	83	188	67	22	26	386
南の丘分校	高等部	45	22	1	1	1	70
	計	45	22	1	1	1	70
計		128	210	68	23	27	456

保管現金有高調

(令和7年度)
(令和7年6月30日現在)

現金保管者	区 分	金 額 (円)
静岡北特別支援学校 校長	有料駐車場料金等 継続的資金前渡	180

預 金 調

(令和7年6月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘 要
静岡銀行 流通センター支店	無利息型 普通預金	0205127	静岡県立静岡北特別支援学校 資金前渡者 鈴木 晴久	0	職員給与用
静岡銀行 流通センター支店	無利息型 普通預金	0205092	(自振口)静岡県立静岡北特別支援学校 資金前渡者 鈴木 晴久	0	公共料金等 口座振替用
静岡銀行 流通センター支店	無利息型 普通預金	0205105	静岡県立静岡北特別支援学校 奨励費代理受領者 鈴木 晴久	0	就学奨励費用
残高合計				0	

郵券等受払調

(令和7年6月30日現在)

(単位:枚、円)

区分	種類	令和 6 年度						令和 7 年度						摘要		
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引 現在高	
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額
本 校	1円券	15	15	9	9	24	24	0	0	0	0	0	0	0	0	通信用
	2円券	47	94	50	100	67	134	30	60	0	0	12	24	18	36	
	10円券	4	40	150	1,500	91	910	63	630	0	0	10	100	53	530	
	50円券	0	0	50	2,500	0	0	50	2,500	0	0	4	200	46	2,300	
	84円券	107	8,988	140 (40)	11,760 (3,360)	241	20,244	6	504	0	0	4	336	2	168	
	92円券	44	4,048	0	0	44	4,048	0	0	0	0	0	0	0	0	
	100円券	29	2,900	0	0	29	2,900	0	0	0	0	0	0	0	0	
	110円券	0	0	250	27,500	117	12,870	133	14,630	150	16,500	105	11,550	178	19,580	
分 校	84円券	22	1,848	50	4,200	72 (40)	6,048 (3,360)	0	0	0	0	0	0	0	0	通信用
	110円券	0	0	110	12,100	40	4,400	70	7,700	0	0	11	1,210	59	6,490	
計		/	17,933	/	59,669 (3,360)	/	51,578 (3,360)	/	26,024	/	16,500	/	13,420	/	29,104	

※ ()内は分校から本校へ異動した枚数及び金額。数字は内数。

材 料 品 受 払 調

(令和7年6月30日現在)

区 分 品 名	令和6年度						令和7年度								摘 要	
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
桧棒材	0	0	1,000	23,100	1,000	23,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
チーク	0	0	1,600	84,480	1,600	84,480	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛革タンロー	0	0	1	38,254	1	38,254	0	0	1	38,094	1	38,094	0	0	0	
エンボスレザー	0	0	1	46,129	1	46,129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛ヌメリラノ	0	0	1	31,620	1	31,620	0	0	1	34,862	1	34,862	0	0	0	
ガラス	0	0	10	19,995	10	19,995	0	0	10	19,998	10	19,998	0	0	0	
計	0	0	2,613	243,578	2,613	243,578	0	0	12	92,954	12	92,954	0	0	0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額(円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	01一般	11教育費	07特別支援学校費	02特別支援学校管理費	/	103,253,964	/
	01一般	11教育費	08学校教育費	04健康体育費		15,250,438	
計					55,211,841	118,504,402	0
(14) 工事請負費	01一般	11教育費	02教育委員会費	03教育管理費	/	596,200	/
計					0	596,200	0
(16) 公有財産購入費					/		/
計					0	0	0
(17) 備品購入費	01一般	11教育費	07特別支援学校費	02特別支援学校管理費	/	880,000	/
計					5,861,240	880,000	0
(18) 負担金、補助及び交付金	01一般	11教育費	07特別支援学校費	02特別支援学校管理費	/	42,700	/
計					71,300	42,700	0
(21) 補償、補填及び賠償金					/		/
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年6月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額(円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	01一般	12教育費	07特別支援学校費	02特別支援学校管理費	17,181,296	/
	01一般	12教育費	08学校教育費	04健康体育費	2,532,263	
計					19,713,559	0
(14) 工事請負費						/
計					0	0
(16) 公有財産購入費						/
計					0	0
(17) 備品購入費	01一般	12教育費	07特別支援学校費	02特別支援学校管理費	264,000	/
計					264,000	0
(18) 負担金、補助及び交付金	01一般	12教育費	07特別支援学校費	02特別支援学校管理費	0	/
計					0	0
(21) 補償、補填及び賠償金						/
計					0	0

委託料に関する調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	給食業務 (事務関係)	株ユアーズ静岡	53,460,000	43,538,000	0	43,538,000	一般	5.7.24 ～ 8.7.31		(9,675,248)	本校給食調理・配膳	5長期
									6.5.31	1,209,384		
									6.6.28	1,209,384		
									6.7.31	1,209,384		
									6.8.30	1,209,384		
									6.9.30	1,209,384		
									6.10.31	1,209,384		
									6.11.29	1,209,384		
									6.12.26	1,209,384		
									7.1.31	1,209,384		
									7.2.28	1,209,384		
									7.3.31	1,209,384		
									7.4.30	1,209,384		
									小計	14,512,608		
2	通学バス輸送業務	静鉄ジョイステップバス(株)旅行営業課	329,817,400	307,940,600	0	307,940,600	一般	6.4.1 ～ 9.3.31		(0)	通学児童生徒の輸送	6長期
									6.5.31	8,553,897		
									6.6.28	8,553,897		
									6.7.31	8,553,897		
									6.8.30	8,553,897		
									6.9.30	8,553,897		
									6.10.31	8,553,897		
									6.11.29	8,553,897		
									6.12.26	8,553,897		
									7.1.31	8,553,897		
									7.2.28	8,553,897		
									7.3.31	8,553,897		
									7.4.30	8,553,897		
									小計	102,646,764		
3	給食可燃物収集運搬処分業務	株荒井産業	運搬料 静岡視覚特別支援 1,320円/回 中央特別支援 1,540円/回 静岡北特別支援 1,540円/回 処分料 6.4～6.7 11円/kg 6.8～7.3 15円/kg	運搬料 静岡視覚特別支援 1,320円/回 中央特別支援 1,540円/回 静岡北特別支援 1,540円/回 処分料 6.4～6.7 11円/kg 6.8～7.3 15円/kg	0	運搬料 静岡視覚特別支援 1,320円/回 中央特別支援 1,540円/回 静岡北特別支援 1,540円/回 処分料 6.4～6.7 11円/kg 6.8～7.3 15円/kg	随契	6.4.5 ～ 7.3.31	6.5.31	44,594	本校外2校給食可燃物収集・運搬・処分業務	随契1号(少額)単価契約 一括契約校：静岡視覚特別支援、中央特別支援
									6.6.28	63,052		
									6.7.31	71,170		
									6.8.30	53,174		
									6.9.30	6,250		
									6.10.31	57,845		
									6.11.29	75,290		
									6.12.26	64,480		
									7.1.31	47,185		
									7.2.28	50,975		
									7.3.31	57,050		
									7.4.30	47,765		
									小計	638,830		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
4	産業廃棄物処理	丸徳商事(有)	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.6.20 ～ 6.9.20	6.9.19	99,000	本校に係る不燃物処分	随契1号(少額)
5	グリストラップ清掃及び汚泥収集運搬業務	静岡ライフライン(株)	66,000	66,000	0	66,000	随契	6.7.2 ～ 7.3.31	6.9.18 7.3.31 小計	33,000 33,000 66,000	グリストラップ清掃及び汚泥の収集運搬	随契1号(少額)
6	グリストラップ汚泥処分業務	日興サービス(株)	33,000	33,000	0	33,000	随契	6.7.2 ～ 7.3.31	6.9.18 7.3.31 小計	16,500 16,500 33,000	グリストラップ汚泥処分	随契1号(少額)
7	産業廃棄物処理	丸徳商事(有)	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.10.4 ～ 6.12.27	6.11.21	99,000	本校に係る不燃物処分	随契1号(少額)
8	産業廃棄物処理	丸徳商事(有)	272,800	272,800	0	272,800	随契	6.11.8 ～ 7.3.19	7.1.31	272,800	本校に係る不燃物処分	随契1号(少額)
9	産業廃棄物処理	丸徳商事(有)	136,400	136,400	0	136,400	随契	7.2.4 ～ 7.3.28	7.3.24	136,400	本校に係る不燃物処分	随契1号(少額)
	事務関係計	9件								(9,675,248) 118,504,402		
	(工事関係)											
	工事関係計	0件								0		
	合計	9件								118,504,402		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	警備業務(本校・南の丘)	エスピートム㈱		11,088,000	42,900	11,130,900		1.9.17 ～ 6.9.30			本校及び南の丘分校外13校警備業務	駿河総合高
参考2	警備業務(本校・南の丘)	エスピートム㈱		12,999,360	0	12,999,360		6.9.12 ～ 11.9.30			本校及び南の丘分校外13校警備業務	駿河総合高
参考3	自家用電気工作物保安管理業務	高橋電気保安管理事務所		926,200	0	926,200		6.4.1 ～ 7.3.31			本校外1校自家用電気工作物保安管理業務	静岡東高
参考4	消防用設備等保守点検業務	旭産業㈱		4,070,000	0	4,070,000		6.4.1 ～ 7.3.31			本校外4校消防用設備等保守点検業務	中央特別支援学校
参考5	可燃物収集運搬処分業務(本校・南の丘)	㈱静岡清掃企業		運搬料 15,950円/回 処分料 11.0円/kg	0	運搬料 15,950円/回 処分料 11.0円/kg		6.4.3 ～ 7.3.31			本校及び南の丘分校外12校可燃物収集運搬処分業務	静岡農高 単価契約
参考6	ガスヒートポンプ点検業務	㈱ユアーズ静岡		2,409,000	0	2,409,000		6.5.22 ～ 7.3.31			本校外7校ガスヒートポンプ点検業務	静岡高
参考7	防鼠防虫業務	㈱総合美装ワタナベ		347,000	0	347,000		6.7.8 ～ 7.3.31			本校外4校防鼠・防虫業務	清水特別支援学校
参考8	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	合同会社石橋剛設計事務所		3,850,000	0	3,850,000		6.8.9 ～ 7.1.31			本校外12校建築基準法第12条に基づく建築及び建築設備定期点検業務	静岡商業高
	計	8件										

委託料に関する調

(令和7年度)
(令和7年6月30日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	給食業務	(事務関係) ㈱ユアーズ静岡	53,460,000	43,538,000	0	43,538,000	一般	5.7.24	7.5.30	1,209,384	本校給食調理・配膳	5長期
								～	7.6.30	1,209,384		
									小計	2,418,768		
2	通学バス輸送業務	静鉄ジョイスステップバス ㈱旅行営業課	329,817,400	307,940,600	0	307,940,600	一般	6.4.1	7.5.30	8,553,897	通学児童生徒の輸送	6長期
								～	7.6.30	8,553,897		
									小計	17,107,794		
3	給食可燃物収集運搬処分業務	(株)荒井産業	運搬料 静岡視覚特別支援 1,320円/回 中央特別支援 1,540円/回 静岡北特別支援 1,540円/回 処分料 15円/kg	運搬料 静岡視覚特別支援 1,320円/回 中央特別支援 1,540円/回 静岡北特別支援 1,540円/回 処分料 15円/kg	0	運搬料 静岡視覚特別支援 1,320円/回 中央特別支援 1,540円/回 静岡北特別支援 1,540円/回 処分料 15円/kg	随契	7.4.7	7.5.30	42,830	本校外2校給食可燃物収集・運搬・処分業務	随契1号(少額)単価契約 一括契約校：静岡視覚特別支援、中央特別支援
								～	7.6.30	70,665		
									小計	113,495		
4	産業廃棄物収集・運搬処分業務	(株)静岡資源	運搬料 17,600円 処分料 55,902円	運搬料 17,600円 処分料 55,902円	0	運搬料 17,600円 処分料 55,902円	随契	7.4.25	7.6.18	73,502	本校に係る不燃物(廃蛍光管・廃乾電池)処分	随契1号(少額)
								～				
事務関係計		4件								(126,834,620) 19,713,559		
(工事関係)												
工事関係計		0件								0		
合計		4件								(126,834,620) 19,713,559		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	警備業務(本校・南の丘)	エスピートム(株)		12,999,360	0	12,999,360		6.9.12 ～ 11.9.30			本校及び南の丘分校外13校警備業務	駿河総合高
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	高橋電気保安管理事務所		886,600	0	886,600		7.4.1 ～ 8.3.31			本校外1校自家用電気工作物保安管理業務	静岡東高
参考3	消防用設備等保守点検業務	旭産業(株)		4,125,000	0	4,125,000		7.4.1 ～ 8.3.31			本校外4校消防用設備等保守点検業務	中央特別支援学校
参考4	可燃物収集運搬処理業務(本校・南の丘)	(株)静岡清掃企業		運搬料 18,000円/回 処分料 15.0円/kg	0	運搬料 18,000円/回 処分料 15.0円/kg		7.4.3 ～ 8.3.31			本校及び南の丘分校外12校可燃物収集・運搬・処理業務	静岡農高 単価契約
参考5	ガスヒートポンプ点検業務	(株)ユアーズ静岡		2,791,800	0	2,791,800		7.5.23 ～ 8.3.31			本校外7校ガスヒートポンプ点検業務	静岡高
	計	5件										

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会	全国特別支援学校知的障害教育校長会会則	特別支援教育及び知的障害教育の振興、学校管理経営に関する調査研究	円 15,000	6.7.12
2	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会	13,200	6.7.12
3	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会規約	知的障害教育の振興、教育の充実・改善の推進、教育上の調査・研究	5,000	6.7.31
4	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	全国特別支援学校知的障害教育校長会	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会要項	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会	3,000	6.7.31
5	東海地区特別支援学校知的障害教育研究大会参加費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会	東海地区特別支援学校知的障害教育研究大会実施要項	東海地区特別支援学校知的障害教育研究大会	2,000	6.8.30
6	安全運転管理者に関する講習会受講料	一般社団法人静岡県安全運転管理協会	道路交通法第108条の2第1項第1号	安全運転管理者講習会	4,500	6.12.20
計		6件	/	/	42,700	/

令和7年度支出額なし

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	教育管理費	令和6年度 静岡県立静岡北 特別支援学校 厨房給湯器更新 工事	静岡市葵区 漆山 地内	596,200	596,200	
		計	1 件	596,200	596,200	

(令和7年度 工事なし)

事 調

(令和6年度)

額	契約締結方法	受注者	着手 完 成 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
計							
596,200	随契	アイリ設備(株)	6. 7. 29 ～ 6. 10. 7	596,200	厨房給湯器 更新工事	済	随契1号(少額) 令達 令和6年7月8日 支払 令和6年10月25日
596,200				596,200			

公有財産調

(令和6年度)

区 分	6年3月31日現在		増		減		7年3月31日現在		摘 要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 143,171		千円 573		千円 12,695		千円 131,049	
立木竹	70本	589					70本	589	
建 物	<u>3,520.47</u> 6,804.69	28,414				2,433	<u>3,520.47</u> 6,804.69	25,981	
工作物	99個	114,168	1	573	1	10,262	99個	104,479	
公有財産に 準ずるもの		827						827	
電話加入権	13件	827					13件	827	

「令和7年度中増減なし」

借地借家等調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量 又は 面積	借料		契約 期間	所有者又は 契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	静岡市葵区 漆山796	田畑	学校 用地	18,783.55 ㎡	0 円	0 円	6.4.1 ～ 11.3.31	地方独立行政法人 静岡県立病院機構	本校 校舎・体育 館・運動場 他
2	土地	学校敷地	静岡市駿河区 有東3-4-17	学校敷地	学校 用地	810.69	0	0	6.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立駿河総合 高等学校長	南の丘分校 学校園・ 駐車場・ 倉庫置場
3	土地	耕地	静岡市葵区 赤松9-7	畑	畑	42.40	—	16,000	7.4.1 ～ 8.3.31	個人	本校 学校農園
土地計						19,636.64		16,000			
4	建物	事務所建	静岡市駿河区 有東3-4-17	鉄筋コン クリート造5 階建		<u>92.60</u> 92.60	0	0	6.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立駿河総合 高等学校長	南の丘分校 職員室
5	建物	事務所建	静岡市駿河区 有東3-4-17	鉄骨造5階 建		<u>480.15</u> 635.36	0	0	6.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立駿河総合 高等学校長	南の丘分校 教室・ 保健室・ 作業室他
6	建物	事務所建	静岡市駿河区 有東3-4-17	鉄筋コン クリート造3 階建		<u>20.70</u> 20.70	0	0	6.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立駿河総合 高等学校長	南の丘分校 部室
7	建物	雑屋建	静岡市駿河区 有東3-4-17	鉄骨造2階 建		<u>27.84</u> 27.84	0	0	6.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立駿河総合 高等学校長	南の丘分校 倉庫・部室
8	建物	事務所建	静岡市駿河区 有東3-4-17	鉄骨造5階 建		<u>65.24</u> 65.24	0	0	5.4.1 ～ 8.3.31	静岡県立駿河総合 高等学校長	南の丘分校 生徒更衣室
9	建物	事務所建	静岡市葵区 漆山796	軽量鉄骨造 2階建		<u>123.47</u> 210.60	162,800	1,953,600	4.12.1 ～ 9.2.28	大和リース株式 会社静岡支店	本校 特別教室
建物計						<u>744.76</u> 1,052.34	162,800	1,953,600			
10	工作物	雑工作物	静岡市葵区 漆山796	舞台幕 吊物装置		1個	0	0	7.4.1 ～ 8.3.31	静岡北特別支援 学校PTA会長	本校体育館
11	工作物	冷暖房装置	静岡市駿河区 有東3-4-17	冷暖房設備		5個	0	0	6.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立駿河総合 高等学校長	南の丘分校 職員室・ 作業室・ 教育相談室
12	工作物	通信装置	静岡市駿河区 有東3-4-17	緊急放送設備		1個	0	0	6.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立駿河総合 高等学校長	南の丘分校 職員室
工作物計						7個	0	0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年6月30日現在)

区分	事業名 又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)						
				4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
長期継続契約	電子複写機 賃貸借及び 使用契約静岡 岡北特別支 援学校外2 校	小型高速機 5台 (静岡視覚特 別支援学校・ 中央特別支援 学校) (契約日) R6.4.1	円 5,478,000	円 —	円 —	円 1,095,600	円 1,095,600	円 1,095,600	円 1,095,600	円 1,095,600
	高速フルカ ラープリン ター賃貸借 契約	小型高速機 1台 (契約日) R5.7.3	円 1,636,800	円 —	円 190,960	円 327,360	円 327,360	円 327,360	円 327,360	円 136,400
	高速フルカ ラープリン ター賃貸借 契約	小型高速機 2台 (契約日) R4.4.1	円 1,234,200	円 246,840	円 246,840	円 246,840	円 246,840	円 246,840	円 —	円 —
	通学バス 輸送業務	通学バス 5台 (契約日) R6.4.1	円 307,940,600	円 —	円 —	円 102,646,764	円 102,646,764	円 102,647,072	円 —	円 —
	給食業務	給食の調理 配膳調理 (契約日) R5.7.24	円 43,538,000	円 —	円 9,675,248	円 14,512,608	円 14,512,608	円 4,837,536	円 —	円 —

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的	
				台帳	現況		単価	年額				
1	建物	事務所建	静岡市葵区 漆山796	鉄筋コンクリート造	2階建	0.01m ²	円	円	免除	7.4.1 ～ 12.3.31	静岡市長	同報無線 戸別受信機
2	建物	事務所建	静岡市葵区 漆山796	鉄骨造	1階建	7.51m ²	円	円	免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡北特別支援 学校PTA会長	体育館舞台 幕吊物設備
合計								0				

主要備品調

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機	月20日(年188日) 給食調理	令和6年3月	円 4,400,000
2	01-13	調理器具	ガス調理機器 1/1ホテルパン20段	月20日(年188日) 給食調理	令和4年1月	3,179,550
3	02-01	その他の情報処理機器	校内LANサーバー一式	月18日(年180日) 情報の授業	平成13年3月	2,289,000
4	02-02	放送装置	出力 360W 出力回路 8回路以上	月20日(年200日) 校内放送	平成9年12月	1,974,000
5	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機	月20日(年188日) 給食食器の洗浄	令和2年3月	1,870,000
6	10-99	その他の教育用器具	木製コンビネーション 遊具	月18日(年180日) 小学部のあそび学習	平成17年3月	1,638,000
7	02-01	パーソナルコンピュータ 周辺機器	パーソナルコンピュータ 周辺機器	月18日(年180日) 情報の授業	令和元年9月	1,261,516
8	02-01	パーソナルコンピュータ (一式)	パーソナルコンピュータ (一式)	月18日(年180日) 情報の授業	平成29年1月	1,183,662
9	10-08	その他の芸術用器具	陶芸用電気窯 松栄堂ACD-20RF	利用停止	平成12年3月	1,155,000
10	01-13	その他の厨房器具	消毒保管機	月20日(年188日) 給食食器の消毒保管	平成15年3月	1,050,000
11	01-13	その他の厨房器具	食器消毒保管庫 両面式	月20日(年188日) 給食食器の消毒保管	平成12年3月	999,600
12	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ カワイRX-2	月10日(年100日) 音楽の授業	平成9年3月	995,000
13	02-01	パーソナルコンピュータ (一式)	県立学校ICT環境整備 機器一式	月18日(年180日) 情報の授業	令和2年1月	942,403
14	02-02	放送装置	グランド放送装置	月20日(年188日) グラントの放送	平成18年9月	892,290
15	02-02	放送装置	体育館放送装置	月10日(年100日) 体育館内の放送	令和6年11月	880,000
16	01-13	その他の厨房器具	食器消毒保管庫	月20日(年188日) 給食食器の消毒保管	平成12年3月	853,650
17	12-01	雑機器	緊急時用浄水装置	月3日(年30日) 防災学習指導	平成19年3月	819,000
18	02-01	その他の情報処理機器	サーバ ラックベースユニット	月18日(年180日) 情報の授業	平成26年3月	760,200
19	01-14	エアコンディショナー	エアコンディショナー ダイキン SZAP1	随時(年50日) 校内冷暖房	平成18年7月	743,400
20	10-09	演劇用器具	演劇用器具 緞帳	随時(年20日) 学校行事・演劇学習指導	平成3年1月	740,000

特別支援学校における生産物売払調

令和7年度

(令和7年6月30日現在)

主 な 生 産 品 目					
7 年 度	<p><南の丘分校・工業デザイン> ステンドグラスキーホルダー、ガラスフュージング、ブックマーク</p> <p><南の丘分校・印刷> 名刺印刷、用紙印刷（モノクロ、カラー）、うちわ</p> <p><南の丘分校・園芸> じゃがいも</p>				
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">①売払金額</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">86,061 円</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">②前年度との差額</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">△607,417 円</td> </tr> </table>	①売払金額	86,061 円	②前年度との差額	△607,417 円
①売払金額	86,061 円	②前年度との差額	△607,417 円		
6 年 度	<p><本校・印刷> メモ帳、あさちゅ〜ノート、メッセージカード、ポチ袋セット、封筒印刷長形3号、用紙印刷(モノクロ、カラー)、ホッチキス綴じ製本、名刺印刷</p> <p><本校・木工> コースター、ポストカード立て、鍋敷き、ティッシュケース、カッティングボード、マウスパッド</p> <p><本校・栽培> ナス、ピーマン、ニンジン、カブ、ダイコン、エダマメ、とうもろこし</p> <p><本校・革工芸> 名刺入れ、ヘアゴム、印鑑ケース、トレー、バスケース、ティッシュケース、眼鏡ケース、ペンケース、スマートフォン用ポーチ、コインケース</p> <p><本校・工芸> 巾着袋、弁当袋、ミニトートバッグ、ボックスティッシュカバー、てぬぐい、廃油石鹸</p> <p><本校・紙すき> ポストカード、カレンダー、名札&メッセージカード、アロマチップ</p> <p><本校・縫製> 布巾、巾着、三角巾、BOX ティッシュカバー、スマホポーチ、エコバッグ</p> <p><本校・クラフトバンド> バンドコースター、かご、ポストカードケース、皿</p> <p><本校・編み織り> 鍋敷き、アクリルたわし、タッセル</p> <p><本校・紙工> 丸コースター、メモ帳、油とりパック、鉛筆立て</p> <p><本校・農園芸> サシェ、ビオラの苗、大根、かぶ</p> <p><南の丘分校・工業デザイン> ステンドグラスキーホルダー、ガラスフュージング、ブックマーク</p>				

6 年 度	<南の丘分校・印刷> 名刺印刷、用紙印刷（モノクロ、カラー）、メモ帳、製本、うちわ <南の丘分校・栽培> ブロッコリー、じゃがいも、さつまいも、白菜、大根			
	①売払金額	693,478 円	②前年度との差額	△127,847 円
5 年 度	<本校・印刷> メモ帳、メッセージカード、ポチ袋セット、用紙印刷（モノクロ、カラー）、 ホッチキス綴じ製本代、名刺印刷 <本校・革工芸> IDカードケース、コインケース、印鑑ケース、ヘアゴム、トレイ、ペンケース、 ブックカバー、キーケース、ティッシュケース、眼鏡ケース、スマートフォン用 ポーチ、パスケース <本校・工芸> 巾着袋、弁当袋、ミニトートバッグ、マルチカバー、ボックスティッシュカバー <本校・栽培> ナス、ピーマン、ジャガイモ、カブ、ホウレンソウ、シュンギク、コマツナ、 ダイコン、エダマメ、ラディッシュ、とうもろこし <本校・木工> コースター、鍋敷き、ティッシュケース、カッティングボード、マウスパッド <本校・縫製> きんちゃくぶくろ、三角巾、バッグ、スマホケース、ポーチ <本校・織り> アクリルクロス、アクリルたわし、裂き織りミニマット、タッセル、ボンボンたわし <本校・編み> 鍋敷き、座布団、ニットコースター、マルチストラップ <本校・紙すき> カレンダー、名札&メッセージカード、アロマチップ <本校・紙工> コースター、メモ帳、油とりパック <本校・クラフト> バンドコースター、ゆらゆらボード（大）、フォトホルダー <本校・農園芸> ボタニカルキャンドル、ビオラの苗、大根、かぶ <南の丘分校・工業デザイン> ステンドグラスキーホルダー、ガラスフュージング、ブックマーク <南の丘分校・印刷> 名刺印刷、用紙印（モノクロ・カラー）、一筆箋、メモ帳、製本、カレンダー、 うちわ <南の丘分校・栽培> ブロッコリー、じゃがいも、トウモロコシ、ピーマン、枝豆、トマト、かぶ、なす、 大根、ほうれん草			
	①売払金額	821,325 円	②前年度との差額	△69,906 円

職 員 調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	鈴木 晴久		□□□	□□□□	□□□□□
2	副校長	鈴木 友美		□□□	□□□□	□□□□□
3	教頭	池田 志保		□□□	□□□□	□□□□□
4	事務長	大嶋 律子	事務	□□□	□□□□	□□□□□
5	教諭	小久江 直子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
6	教諭	磯部 貴子	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
7	教諭	頭師 里和	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
8	教諭	森竹 美文	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
9	教諭	松本 進	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
10	教諭	岡田 実保	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
11	教諭	安藤 ふみ	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
12	教諭	森切 和彦	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
13	教諭	鈴木 由美	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
14	教諭	田中 礼子	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
15	教諭	久 しずか	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
16	教諭	鈴木 参	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
17	教諭	稲木 尚美	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
18	教諭	宮原 浩寿	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
19	教諭	中田 千晴	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
20	教諭	海野 好章	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
21	教諭	影山 雅之	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
22	教諭	中村 淳子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
23	教諭	大橋 美智代	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
24	教諭	長谷川 実穂	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
25	教諭	羽生 裕子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
26	教諭	渡邊 大志	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
27	教諭	望野 亜里砂	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
28	教諭	郡 哲也	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
29	教諭	青山 和幸	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
30	教諭	岩堀 秀人	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
31	教諭	遠藤 和美	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
32	教諭	新海 絵梨	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
33	教諭	繁田 亜紗美	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
34	教諭	江川 佳南枝	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
35	教諭	北川 弥生	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
36	教諭	野崎 知子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
37	教諭	牧野 葉子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
38	教諭	山尾 千尋	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
39	教諭	永井 彰	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
40	教諭	原川 麗子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
41	教諭	峯山 博明	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
42	教諭	植松 準	中学部	□□□	□□□□	□□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
43	教諭	山口 夏絵	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
44	教諭	岡島 祐美	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
45	教諭	喜多 健一郎	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
46	教諭	並木 亜佑美	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
47	教諭	前田 美智子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
48	教諭	杉山 奈実子	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
49	教諭	山本 義男	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
50	教諭	後藤 由加	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
51	教諭	村上 佳奈	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
52	教諭	平野 恵子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
53	教諭	高島 真理子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
54	教諭	渡辺 裕記	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
55	教諭	瀧下 睦	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
56	教諭	池上 紗季	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
57	教諭	牧野 麻衣	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
58	教諭	稲熊 克則	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
59	教諭	鈴木 早恵子	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
60	教諭	大石 健太	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
61	教諭	原田 徹	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
62	教諭	佐々木 良枝	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
63	教諭	赤堀 愛弓	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
64	教諭	越間 拓也	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
65	教諭	北野 朝美	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
66	教諭	長谷川 知愛	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
67	教諭	矢島 友梨香	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
68	教諭	黒柳 千明	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
69	教諭	青柳 香菜	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
70	教諭	杉山 弘己	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
71	教諭	柴田 香	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
72	教諭	望月 祐樹	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
73	教諭	狩野 真里	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
74	教諭	舟金 圭子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
75	教諭	川瀬 聡子	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
76	教諭	西村 秀美	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
77	教諭	土橋 美香	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
78	教諭	大石 俊	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
79	教諭	櫻井 里実	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
80	教諭	青木 たつえ	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
81	教諭	高橋 正記	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
82	教諭	山本 恭寛	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
83	教諭	河原木 望美	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
84	教諭	西村 れお	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
85	教諭	竹内 耕太	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
86	教諭	栗田 恭兵	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
87	教諭	海野 絵里佳	小学部	□□□	□□□□	□□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
88	教諭	甲賀 あかり	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
89	教諭	金子 加奈子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
90	教諭	外岡 明香	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
91	教諭	大内 友絵	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
92	教諭	篠崎 文	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
93	教諭	鈴木 薫	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
94	教諭	杉山 千紗	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
95	教諭	仁藤 敦志	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
96	教諭	山口 美咲	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
97	教諭	坂下 早紀	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
98	教諭	高柳 俊明	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
99	教諭	櫻井 綾奈	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
100	教諭	勝又 有花	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
101	教諭	山本 真鈴	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
102	教諭	藤本 吏歩	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
103	教諭	山崎 伊織	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
104	教諭	塩沢 明	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
105	教諭	松浦 颯司	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
106	教諭	川嶋 円香	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
107	教諭	片岡 香	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
108	教諭	横山 佳織	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
109	教諭	小柳津 絵梨	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
110	教諭	横山 聖子	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
111	教諭	横馬 岬	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
112	教諭	不二 宏伸	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
113	教諭	中川 優季	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
114	教諭	高宮 好美	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
115	教諭	佐野 道造	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
116	教諭	大石 紗也賀	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
117	教諭	池谷 涼日	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
118	教諭	長谷川 菜緒	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
119	教諭	松浦 佑樹	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
120	教諭	石井 嵐	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
121	教諭	川井 風初	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
122	教諭	桂本 健志	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
123	教諭	成岡 美夏	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
124	教諭	若井 至人	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
125	教諭	齋藤 愛恵	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
126	教諭	加島 里菜	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
127	教諭	新聞 啓聖	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
128	教諭	高田 悠太	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
129	教諭	小崎 夢	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
130	教諭	中野 璃子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
131	教諭	種本 有希	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
132	教諭	田村 伸輔	中学部	□□□	□□□□	□□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
133	教諭	深見 孝太	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
134	教諭	片瀬 未優	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
135	教諭	樋口 佳汰	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
136	教諭	高木 しおん	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
137	教諭	羽山 佳那美	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
138	教諭	滝田 ゆうか	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
139	教諭	鍛冶 尚哉	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
140	教諭	田山 麗人	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
141	教諭	重友 莉奈	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
142	教諭	高橋 彩	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
143	教諭	平口 歩	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
144	養護教諭	山崎 聡美	養護	□□□	□□□□	□□□□□
145	養護教諭	木根 由倫美	養護	□□□	□□□□	□□□□□
146	栄養教諭	木村 永梨	給食	□□□	□□□□	□□□□□
147	主査	米津 愛子	事務	□□□	□□□□	□□□□□
148	主査	真野 聡	事務	□□□	□□□□	□□□□□
149	主任	中野 浩好	事務	□□□	□□□□	□□□□□

南の丘分校

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
150	教頭	内田 律子		□□□	□□□□	□□□□□
151	教諭	植田 記久乃	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
152	教諭	森井 香	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
153	教諭	井林 淳子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
154	教諭	松永 千鶴	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
155	教諭	中澤 美紀子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
156	教諭	望月 進介	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
157	教諭	稲木 徹	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
158	教諭	鳥澤 直矢	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
159	教諭	山本 裕子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
160	教諭	小熊 亜有美	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
161	教諭	村田 綾乃	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
162	教諭	深澤 永世	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
163	教諭	高橋 慎	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
164	教諭	小町 真史	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
165	教諭	小崎 結梨亜	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
166	教諭	小田 純	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
167	教諭	望月 広大	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
168	教諭	中村 伸平	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
169	教諭	日野山 真琴	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
170	教諭	柴田 健佑	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
171	教諭	横森 七海	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
172	養護教諭	法月 麻里	養護	□□□	□□□□	□□□□□
平均年数					□□□□	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	加瀬澤 美郁子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
2	教諭(任)	杉山 陽子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
3	教諭(任)	村松 大輝	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
4	教諭(任)	森田 博子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
5	教諭(任)	井垣 晶子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
6	教諭(任)	海野 貴裕	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
7	教諭(任)	川原 直子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
8	教諭(任)	佐野 友彦	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
9	教諭(任)	伏見 健司	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
10	教諭(任)	毎熊 洋子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
11	教諭(任)	山田 貴子	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
12	教諭(任)	渡邊 雅恵	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
13	教諭(任)	西村 祐亮	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
14	教諭(臨)	伊柳 直美	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
15	教諭(臨)	岩崎 えりか	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
16	教諭(臨)	太田 若馬	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
17	教諭(臨)	佐々木 みどり	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
18	教諭(臨)	高岡 礼奈	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
19	教諭(臨)	高山 志保	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
20	教諭(臨)	孕石 恭子	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
21	教諭(臨)	望月 咲良	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
22	教諭(臨)	馬淵 加奈	中学部	□□□	□□□□	□□□□□
23	教諭(臨)	天野 恒太	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
24	教諭(臨)	石本 実咲	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
25	教諭(臨)	稲葉 友美	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
26	教諭(臨)	佐々木 美樹	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
27	教諭(臨)	寺田 剛基	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
28	教諭(臨)	府川 良平	高等部	□□□	□□□□	□□□□□
29	主事(臨)	佐藤 友安子	事務	□□□	□□□□	□□□□□
30	非常勤嘱託員	勝田 順也	事務	□□□	□□□□	
31	非常勤労務職員	上野 繭子	用務	□□□	□□□□	
32	非常勤労務職員	櫻井 俊幸	用務	□□□	□□□□	
33	非常勤労務職員	渡邊 次男	用務	□□□	□□□□	□□□□□
34	医療的ケア看護職員	松村 千賀子	看護	□□□	□□□□	
35	実習支援指導員	吉田 幸弘		□□□	□□□□	
36	非常勤嘱託員	勝山 皓介	実習支援員	□□□	□□□□	
37	非常勤嘱託員	岩崎 裕貴	実習支援員	□□□	□□□□	
38	非常勤嘱託員	渡辺 拓也	実習支援員	□□□	□□□□	
39	非常勤労務職員	入江 美和	スクールバス添乗	□□□	□□□□	
40	非常勤労務職員	大石 恵美子	スクールバス添乗	□□□	□□□□	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
41	非常勤務職員	杉本 敦子	スクールバス添乗	□□□	□□□□	
42	非常勤務職員	杉山 有美	スクールバス添乗	□□□	□□□□	
43	非常勤務職員	鈴木 茂伸	スクールバス添乗	□□□	□□□□	
44	非常勤務職員	服部 ひろ美	スクールバス添乗	□□□	□□□□	
45	非常勤務職員	松下 典子	スクールバス添乗	□□□	□□□□	
46	非常勤務職員	村上 静子	スクールバス添乗	□□□	□□□□	
47	非常勤講師	渡部 哲夫	小学部	□□□	□□□□	□□□□□
48	就労促進専門員	杉山 方城		□□□	□□□□	
49	スクールカウンセラー	茂泉 知代		□□□	□□□□	
50	学校医健康管理医	奥村 良法	内科	□□□	□□□□	□□□□□
51	学校医	羅 錦營	眼科	□□□	□□□□	
52	学校医	大久保 満男	歯科	□□□	□□□□	
53	学校医	小津 龍一朗	耳鼻科	□□□	□□□□	
54	学校薬剤師	石川 好紀		□□□	□□□□	
55	学校医	伊藤 一之	精神科	□□□	□□□□	□□□□□
56	学校医	谷口 秀隆	眼科	□□□	□□□□	□□□□□
57	学校医	遠山 孝之	歯科	□□□	□□□□	□□□□□
58	学校医	長島 泰行	耳鼻科	□□□	□□□□	□□□□□
59	学校薬剤師	石川 友康		□□□	□□□□	□□□□□
	計	59人				

職 員 の 年 齢 調

(令和7年6月30日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳未満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	25	
30 歳以上 40 歳未満	65	
40 歳以上 50 歳未満	50	
50 歳以上 56 歳未満	18	
56 歳以上 61 歳未満	11	
61 歳以上	3	再任用
計	172	平均年齢 40.3歳

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 173人
	職員数 173人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分		人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。	0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療 0人
B 2		要経過観察 0人
C 1	勤務をほぼ平常に行っており、症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療 0人
C 2		要経過観察 0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療 52(52)人
D 2		要経過観察 27(27)人
D 3		医 療 不 要 89(89)人
区 分 者 計		168(168)人
未区分者数		4人
合 計		172(168)人

(1) 管理区分A～C 2該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 人
 イ 新規採用 人
 ウ 自己都合による未受診 人
 エ その他 人
 ()